

板 木

群馬県へき地教育研究資料第61集

平成25年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第61集

序



昭和27年からスタートしましたへき地教育資料「板木」の発行も本年度で61回目を迎えました。へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」は、へき地教育の努力の結晶であり、へき地教育を語る重要な資料であります。昭和50年度のへき地学校数は127校でした。その後少子化や過疎化等社会状況の変化により学校の統廃合が進み、今年度のへき地校数は50校となりました。この冊子には、前年度閉校となったへき地学校の記録や地域の特色を生かした学校経営、へき地学校における教育実践、さらにはへき地学校の児童・生徒数の推移等の資料が紹介されています。長い歴史の中で脈々と受け継がれてきた群馬県のへき地教育を支えてきてくれた先生方の熱い思いを読み取ることができ、改めてへき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝を表したいと思えます。

さて、小中学校で全面実施された新学習指導要領では、「生きる力」を育むことを大きなねらいとしています。群馬県教育委員会では、本県の子どもたちにとくましく生きる力を育むため、平成24年3月に指導資料「はばたく群馬の指導プラン」を作成いたしました。今年度は、本指導資料を県内の全教職員に配布し、指導資料に基づく授業改善を推進するため、13の小学校で公開授業を行いました。今後も様々な施策を通して「生きる力」の育成に努めていきたいと考えております。

一方、へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、様々な施策を実施して参りました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助、県へき地教育研究大会など多くの施策を推進しております。県へき地教育研究大会は、嬭恋村を会場に、「へき地・小規模・複式学級を有する学校の特色を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実を目指して」のテーマのもと、班別研究協議、公開授業、授業研究会が盛大に開催されました。

また、平成26年度には本県において、全国へき地教育研究大会が開催されます。本年度から実行委員会が立ち上がっておりますが、全へき連の「第8次長期5か年研究推進計画」のテーマである「ふるさとで心豊かに学ぶ、新しい時代を切り拓く子どもの育成」に向け、地域の環境を生かした特色ある教育、特に、自然に恵まれた教育環境を生かした体験活動や児童生徒一人一人の個性や能力に応じたきめ細かな指導など日々の教育実践を、全国に向けて発信していただけるものと期待しております。

結びに、ここに、へき地教育研究資料「板木」第61集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表すとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

平成25年3月

群馬県教育委員会

教育長 吉野 勉

「板木」第61集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育にかかわる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、へき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げている

ることに対し、心より感謝申し上げます。

さて、昨今の社会情勢の変化にはめまぐるしいものがあります。少子高齢化の急速な進行や人間関係の希薄化、高度情報化社会の進展や地球環境問題の深刻化、さらに不登校やいじめ問題等、子どもたちを取り巻く環境は確実に変化しており、教育現場においても解決すべき多くの課題が残されております。

へき地教育を取り巻く環境も大きく様変わりをしてまいりました。近年は、学校の統廃合により、へき地の学校の数は年々減少傾向にあります。しかし、へき地学校では自然に恵まれた教育環境や、地域との密接な関係等を教育課程に生かし、児童生徒一人一人に対するきめ細やかな指導や豊かな体験活動を積極的に進めていただいております。このようなへき地学校で取り組まれてきた、温かな人間関係に支えられた教育実践や地域に根ざした教育活動は、全ての学校に求められているものであります。このような教育環境の中で子どもたちは、「生きる力」を確実に身に付けております。これらは、へき地教育に献身的に取り組まれている先生方や地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の方々が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育等をまとめた「板木」第61集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にし、今後のへき地教育の振興を図る上でたいへん意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育の発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様には、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げ、刊行に寄せてのあいさつといたします。

平成25年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 **星野 已喜雄**

「板木」第61集の発刊にあたって

平素より、関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しましてご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年も群馬県へき地教育研究資料「板木」が発刊の運びとなりました。板木は今回で61回目の発刊となります。つまり全国へき地教育連盟が北海道で発足した昭和27年に群馬県も「板木」第1集を発刊したことになります。この「板木」は、群馬県のへき地教育における実践の長い歴史を記した貴重な研究資料としてその使命を果たしてきました。「板木」の発刊並びにへき地教育に携わってきた先輩の方々のご努力に心から敬意と感謝を表します。

過去をさかのぼってみますと、へき地教育を研究しその充実を図ろうとする全国的な機運が高まったことを契機に、本県のへき地教育の取組も始まったものと推察します。本県では群馬県へき地教育研究大会を毎年開催していますが、これも今年で61回目になります。これは平成20年度に「へき地学校経営研究会」と「へき地教育研究大会」を統合し、現在のかたちになりました。しかし統合前からも、それぞれ充実した研修を行っていたことが「板木」の記録からわかります。ぜひ、本冊子に記載してある内容をそれぞれの立場でご確認いただき、そして有効活用していただければありがたいと存じます。

さてへき地教育を考えたときに、その実践の根底には「地域に根ざした教育」の創造があります。その地域の環境も過疎化や少子・高齢化などにより、学校や学校教育に大きな影響を及ぼしています。しかし、へき地教育が求めてきた学校の在り方は地域なくしては語れません。地域の歴史と伝統を生かし、地域との連携を密にしながら新たな課題にも対応していくことが重要です。私たちのふるさとには教育資源もたくさんあり、地域からの協力も得やすい環境があります。こうしたへき地の特色を生かしていくことが学校教育の充実につながります。この思いは、全国へき地教育研究連盟で取り組んでいる「第7次長期5か年研究推進計画」にも生かされていますし、現在策定を進めている第8次計画にも盛り込まれています。

第7次研究の主題は「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした、学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」です。群馬県へき地教育研究連盟としてもこの主題に迫るために、各学校で質の高い学校経営、学級経営、学習指導等を行い、生きる力を身に付けた、人間力あふれる児童・生徒を育成していきたいと考えています。

第8次長期5か年研究推進計画がスタートする平成26年度は、全国へき地教育研究大会が群馬県で開催されます。そのスタートの地にふさわしい充実した研究を積み重ね、群馬大会の成功につながられるよう準備にあたっていきますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

結びに、第61集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方に感謝申し上げるとともに、ご指導ご支援いただきました群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様深く感謝申し上げ、発刊にあたってのあいさつといたします

平成25年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 **吉野 隆哉**

も く じ

序 文

県教育委員会教育長

県へき地教育振興会長

県へき地教育研究連盟理事長

第 1 部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

下仁田町立西牧小学校の閉校 -----	1
下仁田町立西牧小学校（前）校長 並木 伸一	
嬭恋村立東中学校の閉校 -----	2
嬭恋村立東中学校（前）校長 中沢 雅紀	
嬭恋村立西中学校の閉校 -----	3
嬭恋村立西中学校（前）校長 乾 姫志美	

II へき地の学校経営

伝え合う力を育む学校経営 -----	4
高崎市立宮沢小学校長 住谷 孝明	
幼小中の連携を生かした教育の推進 -----	6
東吾妻町立坂上中学校長 牛木 雅人	

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

自分の考えをもち、表現できる児童の育成 -----	8
～言語活動の充実を通して～	
沼田市立平川小学校長 高橋 和広	

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校 家庭と連携した積極的な生徒指導 -----	10
東吾妻町立岩島小学校長 武藤 榮一	
〈2〉中学校 当たり前のことが当たり前に見える生徒を育てる -----	12
片品村立片品中学校長 平賀 信夫	

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 平成24年度へき地学校教員研修の概要 ----- 14

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立干俣小学校長

山口 暁夫

II 第61回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概 要 ----- 15

〈2〉提案要旨

《小学校1班》

社会性や豊かな人間性を育む学校経営の推進 ----- 16

～小規模校の特色や地域の教育力を生かした取組を通して～

中之条町立伊参小学校長

澤野 尚人

《小学校2班》

一人一人のよさを伸長する学校づくり ----- 17

～少人数校の特色と地域の教育力を生かして～

安中市立坂本小学校長

安部 基彦

《中学校班》

小規模校における校内研修の推進 ----- 18

～小中併設校の特性を生かして～

みなかみ町立藤原中学校長

下田 洋一

〈3〉公開授業・授業研究会

①嬭恋村立西小学校 ----- 19

②嬭恋村立田代小学校 ----- 21

③嬭恋村立干俣小学校 ----- 23

④嬭恋村立嬭恋中学校 ----- 25

III へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽） ----- 29

〈2〉Bブロック（吾妻） ----- 30

〈3〉Cブロック（利根・沼田・渋川） ----- 31

IV 第61回全国へき地教育研究大会（和歌山大会）

〈1〉 概要報告	-----	32
	孀恋村立干俣小学校長	山口 暁夫
〈2〉 分科会報告		
B分科会	道徳の時間を核として、教育活動全体を通じて行う豊かな心の育成 -----	33
	～「人」・「自然」・「命」とつながる豊かな心づくり～	
	神流町立中里中学校長	新井 俊幸
C分科会	自ら求め、共に学び合う子の育成 -----	34
	～学びの基礎・基本の定着を図る授業の取り組み～	
	片品村立片品小学校長	吉野 隆哉
D分科会	伝え合うことで自らの学びを深める子どもの育成 -----	35
	～確かな読みを培う国語の授業を目指して～	
	沼田市立平川小学校長	高橋 和広
F分科会	広がる世界 伸びゆく個性 確かな学力 豊かな心 -----	36
	～ひとつのふるさと ひとつの学校 より豊かな教育環境を目指して～	
	県教育委員会義務教育課指導主事	春田 晋
H分科会	保護者・地域と共にふるさとを愛し、	
	心豊かでたくましく生きる生徒の育成 -----	37
	安中市立松井田北中学校長	今井 典幸
I分科会	一人ひとりが進んで表現し、ともに学び合う授業の創造 -----	38
	中之条町立六合小学校長	富沢 正
J分科会	文章を読み取り、自分の思いを表現できる子どもの育成 -----	39
	～書く活動を通して～	
	孀恋村立干俣小学校長	山口 暁夫
K分科会	豊かな心、たくましく生きる力を身につけ、自己の生き方を考える生徒の育成 -----	40
	～生徒の主体性が育つ活動を通して～	
	上野村立上野中学校長	飯出 哲夫

《資料》

I	平成24年度へき地学校資料 -----	41
II	平成24年度群馬県へき地教育振興会役員 -----	44
III	平成24年度群馬県へき地教育研究連盟役員 -----	45
IV	平成24年度群馬県へき地教育センター指導員 -----	46
V	平成24年度へき地教育功労者 -----	47

あとがき	-----	48
------	-------	----

第1部

へき地教育の振興



群馬県へき地教育研究大会 開会式



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
小学校1班



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
小学校2班



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
中学校班

I 変貌するへき地の学校

下仁田町立西牧小学校の閉校

下仁田町立西牧小学校 (前) 校長 並木 伸一

1 はじめに

本校は、下仁田町の中心地より、10km程西へ入った長野県境の山間に位置している。西牧地区は幾多の学校統廃合の歴史を辿り、現在は昭和61年に西牧小・西牧南小・西牧西小が統合し、以来26年で閉校となり、卒業生は501名である。閉校時の児童数は36名で、1・2年と3・4年が複式学級の4学級である。家庭は学校に協力的であり、昔から西牧地域全体が教育に熱心である。

2 学校の沿革

年	主な出来事	児童数
明治7年	本宿「長楽寺」に、本宿学校として創立。	59名
明治12年	西野牧小学校と改称。	152名
明治16年	上鐮学校と改称。第1～3分校(それぞれ市野萱・矢川・入山)等を設置。	176名
明治18年	北甘楽郡第七小学校と改称。	225名
明治20年	西牧尋常小学校と改称。	201名
明治25年	西牧第1尋常高等小学校と改称。分校はそれぞれ第2・第3尋常高等小学校。	219名
明治45年	第2・3を合併し、西牧尋常高等小学校となる。南と西に分教場設置。	637名
昭和22年	西牧小学校と改称。翌年PTA発足。	751名
昭和30年	町村合併に伴い、下仁田町立西牧小学校となる。 [閉校記念壁画づくり]	634名
昭和35年	西、南分校が独立し西牧西小・南小となる。	246名
昭和49年	開校100周年記念式典、記念誌発行。碑建立。	169名
昭和52年	県内第1号となる緑の少年団結成。	153名
昭和61年	西牧3校が統合し、西牧小学校となる。	169名
平成7年	統合10周年記念事業、記念式典、記念誌発行。	141名
平成17年	統合20周年記念式典、記念コンサート実施。	65名
平成23年	町内4校統合により閉校式を実施。閉校記念行事、記念誌発行全戸配付。	36名



3 特筆すべき活動、研究指定、表彰等

- 緑の少年団活動…群馬県では、昭和52年に最初3団体が結成され、その中で第1期生である。昭和54年…緑の少年団奨励賞、昭和59年…県知事表彰、平成10年…全国植樹祭参加(沼田)
- スクールサポートボランティア活動…35名のボランティアが名簿登録している。自主的に校舎周辺の草刈りや、生活科、総合学習で協力してもらっている。
- こども郵便局開設(明治31～平成19年) 昭和61年…こども郵便局郵政大臣賞、平成元年…郵政省貯金局長賞、平成15年…日本郵政公社総裁賞
- 昭和60年…金銭教育実践推進校指定、平成2年福祉教育協力校(3年)、平成10年…体力づくり実践推進地区指定(2年)、平成17年…映像教育授業実践(小栗康平監督講演)
- 平成19年…県愛鳥モデル校に指定(5年)、鳥の巣箱かけや野鳥観察会の実施。
- 平成11年…県「ぐんま父親クラブ」委託指定、平成15年…優良PTA県表彰、親子ハイク実施。

4 おわりに

西牧小学校の校歌は作詞鈴木比呂志氏、作曲は「365歩のマーチ」で有名な米山正夫氏である。校歌作曲に関する経緯が新聞記事として残っている。今後「栄えある小学生」の歌声を聴くことは無いのが淋しいが、ここで学んだ子供たちが、曲の通りに優しく、力強く、そして、学校教育目標「キラキラ すくすく 心豊かな 西牧っ子」に恥じないように前進していくことを期待している。

孺恋村立東中学校の閉校

孺恋村立東中学校 (前) 校長 中沢 雅紀

1 はじめに

新学制施行により六・三制が適用され、昭和22年旧東小学校の校舎を借用して、4月に孺恋村立東中学校は生徒数270名で誕生した。翌23年、現在の三原691番地に最初の東中校舎が建築され、同年11月に移転した。昭和36年からは前校舎の建築が進められ、37年にほぼ完成した。閉校まで使用してきた校舎は平成12年度末に完成したものである。校舎だけでも開校から4回替わっている。この間、本校で65回の卒業式が挙行され、5,843名の卒業生が巣立っていった。昭和37年度には最大459名の生徒数(11学級)を誇った。その後、僅かずつの減少傾向は続き、歯止めがかかるとはなかった。平成23年度、全校生徒は137名、6学級であったが、孺恋村の「学校施設再編計画」に則り、閉校した。

2 学校の沿革

- 昭和22年 開校 (旧東小校舎一部を使用)
- 昭和23年 校舎完成移転
- 昭和29年 吾妻、石津分校独立
- 昭和30年 校旗制定
- 昭和33年 校歌制定 (作詞：佐藤とも 作曲：藤山一郎)
- 昭和37年 新校舎完成
- 昭和45年 石津中学校が東中学校に統合
- 昭和46年 吾妻中学校が東中学校に統合
- 昭和50年 文部省指定生徒指導研究発表
- 平成 6年 全国中学校駅伝大会男子7位入賞、関東中学校駅伝大会男子3位入賞
- 平成 7年 関東中学校駅伝大会男子3位入賞
- 平成 9年 全国中学校スケート大会男子500m 3位入賞
- 平成13年 新校舎竣工
- 平成14年 関東中学校ソフトテニス大会団体女子3位入賞
- 平成23年 群馬県健康推進学校 優秀校
- 平成23年 県中体連スケート大会女子総合四連覇
- 平成24年 閉校



3 おわりに

本校は、「文武両道」が正に似合う校風で、文部省指定生徒指導研究推進校、文科省委嘱連携型中・高一貫教育指定校を始めとし、学校給食、学力向上、生涯学習、同和教育、健康教育等、数々の県指定研究を受ける中、知・徳・体のバランスのとれた人材を輩出してきた。さらに、部活動では、どの部も常に郡の上位を占め、県大会も常連であった。中でも駅伝男子の関東・全国入賞、ソフトテニス女子の関東入賞やスケート女子県総体四連覇は特筆すべきものであった。

平成24年4月からは孺西中と統合し、前孺西中校舎において、村で唯一の孺恋中学校が開校した。前孺東中校舎は、25年度、東部小学校として新しく生まれ変わる予定である。村民の期待に沿うよう、ふるさと孺恋を愛し、仲間を大切にするとともに、互いに切磋琢磨し合う、心身ともに逞しい児童・生徒が育っていくことを願っている。



嬭恋村立西中学校の閉校

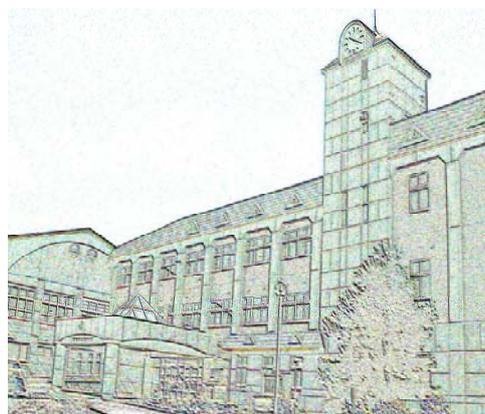
嬭恋村立西中学校 (前) 校長 乾 姫志美

1 はじめに

本校は、南に浅間山、西に四阿山、北に白根山のパノラマが広がる風光明媚な場所に位置し、高原野菜の生産で生計を立てている家庭が多い。昭和22年4月に嬭恋西小学校の校舎を一部借用して、1年生175名、2年生102名、3年生19名、全校生徒296名で開校した。翌年の昭和23年7月に着工、10月には完成するという早急な工事により中学校校舎が完成し移転した。その後体育館建設、プール建設、平成7年には現在嬭恋中学校となった新校舎が完成した。本年3月最後の卒業証書授与式が挙行政され、本校を巣立っていった生徒は7,055名となった。開校から65年の長い歴史を刻み、平成23年度をもって、全校生徒161名で惜しまれつつ閉校した。

2 学校の沿革

- 昭和22年 開校 (西小校舎一部を使用)
- 昭和23年 中学校校舎落成式・新校舎移転
- 昭和27年 体育館完成
- 昭和29年 小串分校独立
- 昭和33年 校歌制定 (作詞：黒岩郁雄 作曲：高山庄七)
- 昭和37年 新校舎増築完成 制服制定
- 昭和45年 全日本学生科学賞群馬県大会最優秀賞受賞
- 昭和46年 小串中学校が西中学校に統合
- 昭和55年 全国中学校スケート大会男子総合優勝
- 昭和56年 全国中学校スケート大会男子総合優勝
- 昭和60年 全国中学校スケート大会男子総合準優勝
- 平成7年 新校舎完成
- 平成8年 新体育館完成
- 全国中学校スケート大会男子総合優勝
- 平成18年 県中体連スケート大会女子総合優勝28回目
- 平成23年 県中体連スケート大会男子総合優勝40回目
- 平成24年 閉校



3 おわりに

数多くの先輩方から受け継がれてきた良き伝統は、65年間変わらず地域の学校として根付き、みんなに愛されてきた。長い歴史の中で、昔から部活動が盛んで、特にスピードスケートにおいては、オリンピック選手を5名も輩出し、本年度は群馬県総合体育大会男子総合優勝20連覇達成という偉業を成し遂げた。学習面においても理科学研究や社会科学研究では、地域に根付いた研究に力を入れ、日本学生科学賞・野鳥観察コンクール文部大臣奨励賞や郷土研究優良賞等、数々の賞を受賞した。平成24年4月からは、嬭恋東西中が統合し「嬭恋中学校」となったが、両校の先輩方から受け継がれてきた伝統を引き継ぎ、嬭恋村で唯一の中学校として新しい伝統を築いていくことを願っている。そしてふるさと嬭恋村を愛し、地域を支える社会人に成長していってくれることを心から願っている。

Ⅱ へき地の学校経営

伝え合う力を育む学校経営

高崎市立宮沢小学校長 住谷 孝明

1 学校の概要

本校は、榛名山南麓の標高360mの山間部に位置し、南に大きく視界が開け、眼下に広がる高崎市街地を見渡すことができる。校区は、果樹栽培（梅・梨・桃など）・野菜栽培（十文字大根）・畜産が盛んで、春には梅などの花が咲き誇る美しい地域である。地域の厚い願いを受けて昭和55年に榛名町立第六小学校（現高崎市立久留馬小学校）西分校から独立し、榛名町立第八小学校として開校した。平成18年10月1日には、高崎市と合併し高崎市立宮沢小学校と校名を変更した。

本年度は児童数61名で、小規模校の特性を生かし「全児童を全職員で育てる」を共通理解してきめ細かな指導を推進している。また、伝統あるファミリー活動（異学年集団活動）や合唱活動など特色ある活動の推進により、子どもたちの豊かな人間性の育成に努めている。

2 学校経営の方針

- (1) 全教職員が協働体制のもと、積極的に学校運営に参画し学校教育目標の具現化を図る。
- (2) 校内研修を充実させ、自ら授業改善に取り組み、子どもを伸ばす教師力の向上に努める。
- (3) 危機管理意識を高め、安全安心な学校づくりに努める。
- (4) 児童理解に努め、全教育活動をとおして思いやりの心を育み豊かな心を育てる。
- (5) ファミリー活動の充実と「歌声の響く学校」づくりを目指す。
- (6) 一人一人の教育的ニーズに応じた支援が行えるよう特別支援教育を推進する。

3 実践の概要

- (1) 各教科等における思考力を高める言語活動の工夫

① 授業研究会の活性化

本校では、「自らの考えを言葉を用いて分かりやすく伝え合うことができる児童の育成」に取り組んでいる。一人1研究授業や校内研修代表授業で実践を重ね、授業後には言語活動に視点を当て、KJ法を取り入れた授業リフレクションやワールドカフェ方式の授業研究会を行っている。短い時間を有効に活用し、意見を交流して次の研究授業に生かしている。

② 言語活動を取り入れた授業実践

各教科等のねらいを明確にし、体験したり理解したりしたことをもとに、思考力、判断力、表現力を伸ばす活動につながるよう言語活動の工夫に視点をあてて授業を実践している。ワークシートやグループ学習を工夫することで、主体的に自分の考えをまとめ、互いに考えを伝え合い、自分の考えや集団の考えを明確にして、交流する姿が見られるようになった。交流することで考えを広げたり深めたりして、より確かな知識や技能、コミュニケーション能力を身に付けるよう支援してきた。確かな学力の向上と身に付けたコミュニケーション能力を日常生活に積極的に生かそうとする児童に育てている。



(付箋紙を使って意見交換)

③ 実践から明らかになったこと

- 思考力の育成に視点をあて、どこに重点をおいて書かせたり、話し合わせたりするのか1時間の授業の配分を工夫し、教師が明確な意図をもって支援する。

○児童の話し合い活動を充実させるために、話し合いの仕方や何について話し合うのか観点を明確にする。「まず」「つぎに」「だから」といった発表の手順や自力解決からペアでの話し合い、全体での発表等を工夫する。

○授業者が児童に何を気付かせたいか、つかませたいか、考えさせたいかその意図をはっきりさせて教材や資料を用意し、調べさせるポイントを明確に提示する。

(2) ファミリー活動による異学年交流

① 主な活動内容

ファミリー活動では、朝行事や集会での交流活動、学級園でのサツマイモの栽培活動などを行う中で、高学年をリーダーとして自治的な活動を行っている。例えば、体育集会では、ラダーやサーキットトレーニング、ファミリーごとの遊びを高学年が中心となって考え活動している。また、ファミリー探検では、年度ごとに全校で「碓氷峠鉄道文化むらとめがね橋へのハイキング」



(めがね橋まで歩き記念撮影)

へ行き、それぞれのファミリーごとの活動を計画し、協力して当日の活動を行っている。活動終了後には、各ファミリーの活動を壁新聞としてまとめ掲示している。

② 言語活動の視点から成果と課題

高学年児童は班の活動を進めることでリーダーシップを養い、日常生活でも下級生の面倒をみたり、優しく遊んであげたりと思いやりの心が育っている。低学年の児童には難しい言葉を使わずにわかりやすく説明しようと努力している。ファミリーの活動計画を企画したり、まとめて発表したりする活動でも、わかりやすく文章でまとめ、言葉を適切に使って伝える力がついてきている。今後も自分の言葉や文章で学んだことや気持ちを伝える力を身に付けさせていきたい。



(高崎市議会で議会前に合唱を発表)

(3) 歌声の響く学校

木曜日の第6校時を合唱の時間に設定し、基本的な発声方法の習得、歌唱による表現力の向上を目指して活動している。6年生をリーダーに自主的に練習し、学年ごと、パートごとの責任感や意識の向上につなげている。毎年「TBSこども音楽コンク

ール」に応募し、全員が気持ちを一つにして合唱し、声を合わせて歌う合唱の楽しさや美しさを感じ、表現力を高めるよう指導している。音楽集会では、全員で歌ったり、各学年の音楽発表を行ったりして、授業での成果を発表する機会を設けている。お互いの発表を聴いて感じ取ったことは、自分なりの言葉で良さを伝え合い認め合って音楽に対する感性を養っている。

4 おわりに

言語活動にかかわる文献研究や講師を招聘した研修会を行い、児童に身に付けさせたい力を明確にして各教科及び領域等の実践に取り組んできた。言語活動を有効に活用し、児童は自分で考えたことをまとめ、グループやクラス全体で相手にわかりやすく適切な言葉で伝えようとする意識や意欲が高まってきた。ワークシートや話し方、発言のルールなどを工夫したことで、自分の考えや思いを伝えたり、表現したりするための語彙が少しずつ増え、筋道をたてて発表できるようになってきた。学習形態を個から集団へと広げ、その中で自分の考えが言えるよう、今後も言語活動への興味・関心を高め伝え合う力を育んでいきたい。

幼小中の連携を生かした教育の推進

東吾妻町立坂上中学校長 牛木 雅人

1 はじめに

本校は、群馬県の北西部に位置する東吾妻町の西部にあり周囲を山々に囲まれた自然豊かな環境にある。校区内は主要道の国道406号線が横断しており、近年ハツ場ダム工事の関係で長野原町に抜けるトンネルもできつつあり、周辺道路の整備が進み交通の便の改善が見られる。ただ、急激な少子高齢化が進み、本校の在校生の数は年々減少傾向にある。



今年度の生徒数は69名で、3学級のへき地小規模校である。

幼稚園、小学校、中学校が連絡通路でつながっており、日常的に行き来しやすく、幼小中の連携を行いやすい環境にある。生徒はやや積極性に欠けるが、素直でまじめであり、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。保護者は学校に対して協力的であり、PTA活動では父親の参加率が高く、地域や家庭の学校教育に対する関心の高さがうかがえる。

2 学校教育目標

郷土を愛し、目標に向かって真面目に努力し、自ら人生を開拓するたくましい生徒を育成する

3 学校経営の努力点

- (1) 校務分掌を自覚し、積極的な参画による学校経営の推進を図る。
- (2) 言語活動を重視した授業実践と評価計画の改善を行う。
- (3) 学級活動や生徒会活動への生徒の自主的・実践的な取組を推進する。
- (4) 道徳的価値を深めるための道徳の時間の授業展開及び教材の工夫を行う。
- (5) 自らの健康の保持・増進に努めようとする態度の育成を図る。
- (6) 安全な登下校、安全な生活への意識の向上と指導の徹底を図る。
- (7) キャリア教育の視点からの教育活動の見直しと体系的な指導の推進を図る。
- (8) 幼小中との連携による生活習慣と学習習慣を確立する。

4 実践の概要

(1) 幼小中連絡会議の実施

月に1回程度、幼稚園、小学校、中学校の校園長、教頭、教務主任で連絡会議を実施している。この会議のねらいは、幼小中で学校行事や子どもたちの様子などを情報交換したり、共通的に取り組むべき事項を協議したりして、教育活動を充実させたり、校種間の接続を円滑に進めたりすることにある。昨年度、共通して取り組むべき事項として、子どもたちに身に付けさせたい学習習慣や生活習慣の具体的な内容を発達段階に応じて明文化し、各教室に掲示してその定着のために各校園で取り組んでいる。また、PTAセミナーや廃品回収など小中で一緒に行う行事について、その運営確認や反省などを行うことで円滑に進めることができる。このように、連携、協

	1・2年生	3～6年生	中学生
授業前	チャイムがなったら、せきにつこう。 トイレにいったら、おこし。	チャイムがなったら、席について準備を確認しよう。	チャイム着席をして、教科書、ノートを開いておこう。
授業中	なまをよばれたら、「はい」とへんじをしよう。 はなすかたのほうをむいて、しっかり聞こう。 手をあげて、おおきなこゝろで話そう。	大きな声で、はっきり返事をしよう。 話す人のほうをむいて、しっかり聞こう。 思ったことを最後までしっかり言おう。	その場に応じた返事をしよう。 人の話をしっかり聞き取ろう。また、大事なことはメモしよう。 思ったことや考えたことを、他の人が分かるように発表しよう。
授業後	あとかたづけをし、片付けよう。	次の学習の準備をしよう。	片付け、準備(教室の移動)を速早くしよう。

(坂上 学びの約束)

各教室に掲示してその定着のために各校園で取り組んでいる。また、PTAセミナーや廃品回収など小中で一緒に行う行事について、その運営確認や反省などを行うことで円滑に進めることができる。このように、連携、協

力が必要な事項を協議することで、幼小中の立場や考えを理解し合い、統一的な指導の充実が図られるなど、坂上地区の子どもたちの健やかな成長が図られている。

(2) 緊急帰宅シミュレーションの実施

大きな災害（震度5弱以上の地震等）が起きたとき、幼稚園、小学校、中学校に在籍する兄弟姉妹と一緒に帰宅させるために、緊急時幼児・児童・生徒帰宅対応方法のマニュアルを作成した。1学期にこのマニュアルに基づき、教師や子どもの動きを確認するため、小学生や幼稚園に弟や妹がいる中学生が、幼稚園・小学校に向かえに行つて中学校集合場所に連れてくるまでの動きのシミュレーションを行った。



（緊急帰宅シミュレーション）

迎えに来た中学生に弟や妹を迅速に引き渡せないなどの課題は残ったが、子どもたちは思った以上にすみやかに行動しており、この方法の有効性を確認できた。シミュレーションでは、生徒たちも緊急時という意識をもって取り組み、自分のみでなく弟や妹の安全を守りぬくための主体的な態度の育成という視点からも意味ある取組となった。

(3) 幼小中連携全体研修会の実施

本地区では、年2回幼小中の全職員を対象に全体研修会を実施している。本年度は1回目として夏季休業中に県総合教育センターの指導主事を講師に迎え「幼小中での一貫した成長を促す保育・生活科・総合的な学習の時間の考え方と実際」と題し講習会を実施した。講話後の班別研修では、幼稚園と小学校の低学年担当が、中学校と小学校の高学年担当が一緒になって生活科や総合の単元構成について話し合った。互いの取組内容や課題を話し合う中で、自校の取組の方向性や改善点を見いだすことができ、有意義な全体研修会であった。このように幼小中に共通する内容をテーマにして、年2回程度研修会を実施し協議する機会をもつことで、職員同士の結びつきも深まってきている。

(4) その他

① 空き缶回収

本校の生徒会が中心に行ってきた空き缶回収を昨年度から小学生も一緒に回収している。このことにより、一つの学区で同時期の回収になり、地域の方々もそのときに一度に出せば済むことや回収する側も小学校と協力して行うので、回収作業の効率化を図ることができた。

② 校内研修の活性化

本校では授業研究会の持ち方について、坂上小学校の取組を参考にしている。坂上小学校の授業研究会に研修主任など本校職員が参加し、その方法を学んだ。このことにより、本校の授業研究会の改善が進み、校内研修の活性化に結びついている。

③ 職場体験学習

本校では夏休みの3日間に職場体験学習を実施している。生徒の希望から今年は町内外の14事業所で行った。その中で、坂上幼稚園や坂上小学校でも職場体験させていただいている。

5 おわりに

幼小中の連携を通して、幼児・児童・生徒に対する理解を深めるとともに、職員同士も知り合う中でより密接な関係が生まれ、協力体制の構築につながってきている。今後は、3校園がもつ物的、人的な教育資源をより有効に活用することで、充実した教育活動を展開していきたいと思う。

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自分の考えをもち、表現できる児童の育成

～言語活動の充実を通して～

沼田市立平川小学校長 高橋 和広

1 学校の概要

本校のある利根町（旧利根郡利根村）は、平成17年2月の市町村合併により沼田市に編入した。四方を1300^mから2400^mの山々に囲まれ、町の南部は赤城山の北斜面になっている。町の西部には片品川が流れ、国天然記念物に指定されている吹割瀑や吹割溪、老神温泉などがあり、豊かな自然や温泉を求め、訪れる観光客も多い。

本校はこの平川地区にあり、沼田市内中心地から北東へ27kmほど離れたところに位置している。明治7年利根郡東村北尋常小学校として開校して以来幾多の変遷を経て、利根村立東小学校平川分校、利根村立平川小学校、沼田市立平川小学校と名称を変え、地域の文化の拠点として130年余の歴史を刻んでいる。

今年度の児童数は58名、職員数11名である。平成2年に建設されたゆったりとした校舎、緑の自然に囲まれた静かな環境の中で、児童は学校の田んぼで米作りを体験したり、隣接する片品村のスキー場でスキー教室を行ったりしている。



2 主題設定の理由

本校では、昨年度まで各教科の単元の中で意図的に言語活動を取り入れた授業を行うとともに、各学年の重点教科とその目指す児童像を設定し実践してきた。その中で、「平川小トークスキル」は、低・中・高学年毎に示した目標達成に向けた具体的な取組ができた。

しかし、児童の課題として、自分の考えや意見を出せる児童が固定化し、限られた児童の意見に流されやすい。友達と自分の考えを比較し、認めたり改めたりして考えをより深めていけない。などが浮き彫りになった。

この課題を解決するため、研究主題を「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」とし、学習課題について一人一人が自分の考えをしっかりともち、その考えを自信をもって発表したり、友達の意見に対する自分の意見を発表したりして考えを深めていく授業の展開や改善に取り組み、併せて、朝行事や学校行事など様々な場面で、自己表現の機会や言語活動の充実を通して、児童のコミュニケーション力やその質を高めていきたいと考えている。

3 実践の概要

(1) 研究の方針

「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」を目指すため、①各学年の重点教科とその目指す児童像の設定、②各教科年間指導計画に言語活動を意図的・計画的に設定、③言語活動



を充実させるための話し合うことを明確にした授業づくり（ワークシートや授業形態の工夫）、④「音読学習発表会」の充実、⑤「平川小トークスキル」の活用、を研究の中心として展開する。

(2) 授業の実際

一人1研究授業を基本に、職員総参加による研究授業を実施した。授業研究会では、ワークショップ形式による協議を行い、研究の深まりを図った。

【低学年】 1年：道徳 （※◆目指す児童像、◎成果、☆課題→改善策）

◆自分が感じたことや考えたことを進んで表現できる児童

◎授業の準備（絵や写真の提示物）が整っていたこと、教師の声かけや支援がよかった。

◎児童の学習習慣やルールが身につけてきていて、がんばり、満足感、達成感がみられた。

☆評価の仕方→ねらいと評価は一致させ、ねらいの中に言語活動が入れば入れていく。言語活動は目指す児童像の中で明記する。

☆学習形態や提示の仕方→グルーピングや役割演技を取り入れていく。



【中学年】 3・4年複式：学活

◆理由や事例を入れながら、自分の考えをわかりやすく伝える児童

◎ロールプレイの導入がよかった。（教師が悪役、目的の確認）

◎話し合いの仕方がマニュアル化され、意見カード（個人）の活用はそのきっかけになった。

☆ねらいを明確に→スキルトレーニングか問題解決の重視のどちらかにしぼる。

☆意見カードの活用→意見・理由、焦点などが絞り込みやすいものを作成する。



【高学年】 5年：算数

◆図・式・言葉などで相手に分かりやすく考えを説明できる児童

◎導入（身近な図、用語、既習事項）、学習形態（個→グループ→全体）がよかった。

◎話型を提示したので、グループでの話し合いがスムーズだった。

☆ワークシート→キーワードや図形等しぼって重点化する。

☆交流での発表の仕方→自力解決で正解しなくてもよい。交流によって考えが深化する。自分、友達、グループのちがいの見つけ方・生かし方



(3) 平川小トークスキル

話し方やそのめあてを、低・中・高学年別に示したもの

(4) 音読学習発表会

確かな読みを育成するため、児童が自分の考えや思いを音読で表現できる読みを目指し、学期に2回ずつ朝行事で行う。

4 まとめと今後の課題

○ 研究授業と授業研究会の積み重ねで、成果や課題から見つけた改善策を、次の授業実践で活用したり、修正したりして、研修を深めることできた。

○ 「平川小トークスキル」の再確認、聞き方について検討、自力解決や交流の場の持ち方の工夫、等の課題に取り組んでいきたい。



Ⅳ へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小学校

家庭と連携した積極的な生徒指導

東吾妻町立岩島小学校長 武藤 栄一

1 地域・学校の概要

本校のある東吾妻町は、群馬県の北西部にある吾妻郡の中央に位置している。その中で、岩島地区は、東吾妻町の西端に位置する地域で、吾妻溪谷の入り口にあたる。かつては、麻の栽培が盛んであった。現在も許可を得て麻の栽培が行われ、伝統が受け継がれている。

本校は、旧岩島第一小学校と旧岩島第二小学校が統合し平成11年4月に開校した学校である。当時は各学年2クラスであったが、現在は、各学年1クラス、全校児童109名の学校である。児童は素直で明るく、思いやりがある。豊かな自然に囲まれ地域や保護者の温かい協力的な思いの中、地域をあげて、一人一人が大切にされ伸び伸びと生きる子どもの育成に取り組んでいる。

2 生徒指導の課題と方針

(1) 課題と基本的な考え方

東日本大震災以来、絆の大切さが見直されるようになった。絆とは、断つことのできない結びつきであるが、子どもたちにとって最も大切な絆は、親との絆であることは間違いない。本校は先にも述べたが、山間地にある小規模校である。豊かな自然に囲まれ、地域や保護者の温かく協力的な思いが伝わってくる地域である。しかしながら、ここ岩島地区も近年の都市化や核家族化の中で、教育の出発点である家庭の教育力の低下は否めない。アンケートからも、児童は素直で明るく、安定しているように見えるが、地域特有の限定的で固定化した人間関係の中で安定している感があり、親からの強い絆による安定とは言い難い。むしろ、限られた関係の中、我慢することで安定していると言った状況である。そのため、子どもたちは、自ら新たなことに挑戦しようとしたり、ましてや人間関係を新しく広げようとしたりする意欲に乏しい。

このような子どもたちが、自主的に活動したり、人間関係を広げたりしていくためには、失敗しても受容され、どんな自分であっても愛情を注いでくれる確かな絆の実感が欠かせない。すなわち、親からの確かな結びつきを十分に実感できることがまずその原動力として大切である。

そこで、家庭の協力を仰ぎながら、子どもたちが親との確かな絆を実感できるような取組を行うことにした。このような取組は、文部科学白書に示されているように、「学習を希望する親の支援」から「全ての親を対象とした支援」へと転換し、「心に迫る」取組を積極的に進める家庭教育支援のあり方にも合致するものと考えた。

(2) 取組に於ける方針

上述の考えに沿って次の方針で取り組んだ。

- ① 保護者に直接的に働きかける取組を行う。
- ② 保護者と子どもの交流を通して働きかける取組を行う。

3 実践の概要

(1) 学びあいの場としての保護者会（直接的な働きかけ1）

今まで、保護者会は教師からの情報伝達が中心で、保護者はどちらかというと受け身であった。そこで、保護者会を保護者自身がかかえている子育て上の悩みを解決する機会と捉え、保護者が主体的に参加し、保護者同士が共に学びあえる場にしたいと考え取り組んだ。ここに示した例は、子育てを家族という視点からとらえ、子育て上の家族の役割を一人一人の保護者に考えてもらう

取組である。保護者は自分の家族を見つめながら、他の保護者の意見を聞き、家族の一員として我が子に対するかかわり方について再度見つめ直し学ぶことができるようにした。

実施後、「夫と自分(母親)だけでなく祖父母も含め全員が一人の子に気持ちが集中していた。これでは子どもも負担だったでしょう。かかわりを変えたいと思います。」「とてもいい機会を与えてもらい親子の関係を考え直すことができました。帰ったら主人に話したいと思います。」など、自分の子育てを見直し、子どもとのかかわりを考え直す意見が多く聞かれた。

(2) 子育てに特化した通信の発行(直接的な働きかけ2)

本校では、「学校便り」に加えて、保護者が、我が子の子育てを振り返り、よりよい子育てにつながるよう、別の学校便り、「校長室からの風景」を発行している。そこでは、学校での子どもたちの様子から見える課題を取り上げ、保護者に考えて欲しいこと、見直して欲しいことなどを記載して配付している。内容的には、子育てに関する「常識」と言ってもよいものであるが、現代の親にはあまり知られていないか、あるいは、伝わっていない子育てに関わる内容である。「自分の子育てを振り返るよい機会になっています。」などの意見が寄せられている。

(3) 子ども理解を深める取組(交流を通した働きかけ1)

子どもたちの「家族に関するアンケート」では、親から叱られることは愛情の裏返しであると気付いている子どもは少なく、叱られることで親の愛情を疑い、承認されていないと感じている子どもたちが多いことが分かった。

そこで、子どもには、親の愛情を一身に受けている自分に気付かせるとともに、保護者には、子どもの学校での活躍を知り、叱られる子どもの気持ちを考えることで、家庭での子どもへの接し方を見直す機会として、学習指導要領特別活動編、学級活動の内容〔共通事項〕(2)のイウエで求められている日常生活への適応及び健康安全を目指す学習指導を計画・実施した。



(4) 体験的に絆を深める取組(交流を通した働きかけ2)

(4年生での取組)

全保護者と全校児童を対象にした取組として、「親子の絆を深める秘訣—体験を通して気づき考える—」と題したPTAセミナーを実施した。まず始めに、体育館で全保護者とその子ども(親子)と一緒にエンカウンターを行い、親子の絆を体験的に学ぶ。その上で、その体験をもとに、保護者には、親子の絆をどうすれば深められるか、どうかかわればよいか、具体的な事例を通して講話を行った。

保護者からは、「子どもと久しぶりに手をつないだりハグしたりして、子どもの照れながらも嬉しそうな顔が印象的でした。大きくなって子どもとのスキンシップが大切なんだと感じました。」「もっと、子どもの言葉を聞いて、気持ちを大切に接していくことが大切だと反省しました。スキンシップや食卓の雰囲気にも注意して接していきなさいました。」などが聞かれた。



(体育館での様子)

4 おわりに

教育という言葉は、「教える」と「育てる」の二文字からできているが、学校教育では、漢字を教える等、「教」に重点が置かれてきたように感じる。もちろんこのことは大切であるが、思いやりの気持ちや豊かな心の重要性は何度繰り返しても足りないほどであり、これらは、「教える」というより、「育む」ことに関係する。ここで取り上げた絆は、まさに「育」に関わることである。これからは、子「育て」の問題を教師も保護者もよりしっかりと受け止め、今まで以上に、学校と家庭が連携し、子「育て」に向き合っていく必要があると思う。

〈2〉 中学校

当たり前のことが当たり前でできる生徒を育てる

片品村立片品中学校長 平賀 信夫

1 地域・学校の概要

本校のある片品村は、群馬県の北東部に位置し、群馬県、福島県、新潟県、栃木県にまたがる『国立公園尾瀬』を有している。また、村の産業は『尾瀬』やスキー場を中心とした観光、野菜栽培を中心とした農業がその主なものである。平成24年8月現在の人口は、約5千人で、年々その数は減少傾向にある。村内には、4つの小学校があるが、将来的に一つの小学校に統合する予定となっている。

生徒数164名、教職員数24名（非常勤講師、スクールカウンセラー、特別支援員等を含む）の小規模校である。生徒は、素直で何事にも前向きに取り組み、あいさつもよくできる。部活動は、野球、ソフトテニス、サッカー、卓球、バスケット、バレー、剣道、アルペン、クロカンがある。平成24年度より3年間、本村が文部科学省「人権教育総合推進地域」、本校を含めた村内全小中学校が「人権教育推進協力校」に指定され、人権教育についての研究に取り組んでいる。

2 生徒指導の方針

- (1) 教師のきめ細かな援助、指導の下に、生徒の自主的な活動を促し、諸活動を生徒自らの力で展開していく力を養う。
- (2) 信頼関係を基盤とした節度と温かさ・生徒一人一人に心の居場所がある学年・学級づくりを行う。また、その中で基本的な生活習慣と行動様式の定着を図る。
- (3) 諸活動におけるふれあいを通じた多面的な生徒理解に努め、適切に援助、指導していく。
- (4) 職員間の報告、連絡、相談、確認を密に行い、全職員共通理解の統一を図り、きめ細かな指導を実施する。
- (5) 学校と家庭、地域、関係機関との連携に努め、指導の徹底を図る。
- (6) いじめ対策委員会（生徒指導委員会）を設け、いじめ根絶に努める。

3 具体的な内容と方法

- (1) 基本的な生活習慣と行動様式を徹底させる。
- (2) 基本的な学習習慣の確立に努める。
- (3) 生命・身体の安全に関わることは徹底した指導を行う。
- (4) 社会性の助長と連帯感の育成に努める。
- (5) 善行を進んで行う場を設定し、豊かな心の育成に努める。
- (6) チャンス相談をこまめに行い、生徒理解に努める。
- (7) 生徒指導委員会を定期的開催し、学校内外の生徒の実態把握に努め、情報交換を密にして、問題行動の早期発見とその指導及び非行防止に努める。
- (8) スクールカウンセラー、関係機関との連携と充実を図り、生徒の諸問題の解決にあたる。

4 実践の概要

上記の具体的な内容と方法について、その取り組みの一部を以下に示す。

- (1) 基本的な生活習慣と行動様式の徹底〈あいさつ・返事〉
 - ① 生徒会活動として、毎朝7時40分から8時10分まで、生徒玄関で登校する生徒・職員に声

をかける「あいさつ運動」を行っている。生徒会本部が中心となり、専門委員会、学級、部活動が一週間ずつ交代制により、年間を通じて実施している。教職員も毎日交代で参加し、保護者も、5月から11月まで、月2回、計12回、「PTAあいさつ運動」に参加している。

② 村内全小中学校が「人権教育推進協力校」に指定されたことを受け、これまで行ってきた人権教育に関する基本的事項について、管内校長会で発表し合い、「あいさつ」や「返事」に関する指導の重要性について共通理解し、今後も村内全小中学校において指導を継続していくことの確認を行った。

③ 生徒会においては活動方針を以下のとおり定め、生徒会本部を中心に活動している。

笑顔のたえない学校	積極性のある生徒
	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを自分から大きな声でしましょう ・積極的に勉強や部活動を取り組み、文武両道を目指しましょう ・地域の行事やボランティア活動に積極的に取り組みましょう
	公正な判断ができる生徒
	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも思いやりの心をもって接しましょう ・任された仕事を責任をもってやりとげましょう ・身だしなみを整え季節に応じた服装をしましょう
	愛校心のある生徒
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの仲間と協力してすみずみまで掃除をしましょう ・一つ一つの行事を学校全体で盛り上げて行きましょう ・公共物を大切に扱い、使用後は元の場所に片付けましょう

(2) 社会性の助長と連帯感の育成<学校行事等を活用した学級経営の充実>

本校には、マラソン大会、体育祭、合唱コンクール、ディスタンス大会など学級対抗で取り組む学校行事がある。ディスタンス大会はクロスカントリースキーによる学級対抗リレーで、本校の特色でもある。学級毎のこれらの学校行事への取り組みの中で、互いに支え合い協力し合いながら一つの目標に取り組む態度が養われている。直向きの取り組みを大切にすゝる気持ちを生徒はもっており、マラソン大会、体育祭、ディスタンス大会などでは、最後まで諦めず取り組んでいる友達への声援を惜しまない生徒の姿が印象的である。

(3) 善行を進んで行う場の設定と豊かな心の育成<生徒会活動の充実>

地域の環境整備と奉仕する心を養うため、例年6月に「尾瀬環境ボランティア」を実施している。これは、生徒会本部が企画運営し、校区内の各方面毎に、生徒がゴミ拾いなどの地域清掃を行っている。また、今年度より、生徒会環境委員会が中心となり、プランターによる花の栽培に取り組んでいる。サルビア、マリーゴールドなど数種類で、灌水などの日常的な管理を行っている。

(4) 生徒指導委員会<実態把握・情報共有・早期対応>

毎週水曜日に、生徒指導委員会を開催している。生徒指導に関わる情報交換や今後の指導方針の確認を行っている。月毎の生活アンケートの実施や日々の生活ノートの点検や観察により生徒の状況を把握している。学級経営の充実を図る観点から年2回、「QU検査」を実施し、その活用を図っている。また、ケータイ・インターネットの危険性についての生徒向け学習会、保護者向け研修会を各1回開催している。

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



群馬県へき地教育研究大会
嬭恋西小 1年 国語



群馬県へき地教育研究大会
田代小 6年 理科



群馬県へき地教育研究大会
干俣小 6年 道徳



群馬県へき地教育研究大会
嬭恋中 3年 数学



群馬県へき地教育研究大会
嬭恋中 3年 英語



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会

I 平成24年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立干俣小学校長 山口 暁夫

1 平成24年度のへき地学校教育

平成24年度の県内へき地学校は、休校中の2校を含め50校、児童生徒数3,934名、教職員数584名である。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の2.3%で、昨年と比べると学校数は4校減、児童生徒数で316名の減、教職員は6名減員した。昨年度に引き続き、各地区での学校統合が行われ、学校数・児童生徒数・教職員数とも大きく減少した。児童生徒数が少なく、教育活動が危ぶまれるため、今後も、学校統合が進む状況があり、学校数・児童生徒数、教職員数の減少は避けることができないだろう。へき地教育連盟としては、へき地学校の小規模の利点や、地域との密接な連携を生かし、子どもたちに「生きる力」を身に付ける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

2 活動方針

(1) 研究主題 「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成」

(2) 活動方針

- ① 本連盟は、県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携・協力を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
- ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
- ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連携・親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3) 活動内容

- ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。
- ② へき地教育ブロック別実践研究集会等を開催し、研究実践を深め、へき地教育に携わる教職員の資質向上を図る。
- ③ へき地教育研究大会を県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資する。
- ④ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

3 研究・研修の概要

(1) へき地教育ブロック別実践研究集会の開催

- Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽） 8月6日(月)：講演会、現地研修会
- Bブロック（吾妻） 8月9日(木)：全国へき地教育研究大会報告、講演会
- Cブロック（利根・沼田・渋川） 8月10日(金)：現地研修会

(2) 第61回全国へき地教育研究大会和歌山大会への参加 10月18日(木)～19日(金) 8名参加

(3) 第15回関東甲信越へき地教育研究大会茨城大会への参加 11月21日(水)～22日(木)12名参加

(4) 第61回群馬県へき地教育研究大会 11月14日(水) Bブロック開催 全体会：嬭恋会館
授業公開：西小学校、田代小学校、干俣小学校、嬭恋中学校

(5) 広報「県へき連」第72号・73号の発行

(6) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第61集発行

II 第61回 群馬県へき地教育研究大会

＜1＞ 概要

- 1 趣 旨 へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。
- 2 大会テーマ ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～
- 3 期 日 平成24年11月14日（水）
- 4 会 場 【開会行事・全体会・班別研究協議】 嬭恋会館
【公開授業・授業研究会】 嬭恋村立西小学校（小学校低学年）
嬭恋村立田代小学校（小学校高学年） 嬭恋村立干俣小学校（小学校高学年）
嬭恋村立嬭恋中学校（中学校）

5 日 程

9:30	9:50	10:20	10:50	12:00	13:00	13:30	14:30
受付	開会行事	全体会 ・全へき連、 関プロ、 県へき連等 報告確認	班別研究協議 ・小学校Ⅰ班 ・小学校Ⅱ班 ・中学校	昼 食 休 憩 移 動	受付 (午後)	公開授業 ・西小学校 ・田代小学校 ・干俣小学校 ・嬭恋中学校	授業研究会 ・小学校低学年 ・小学校高学年 ・小学校高学年 ・中学校 数学 ・中学校 英語
10:40			14:15 (20)				16:00

6 班別研究協議

	司 会	提 案	記 録	世 話 係	指 導 助 言	場 所
小学校Ⅰ班	吾妻：沢田小 校長 篠原智彦	吾妻：伊参小 校長 澤野尚人	吾妻：応桑小 校長 高山明彦	吾妻：高山小 校長 篠原三千雄	吾妻教育事務所 指導主事 浅井広之	和室 (2階)
小学校Ⅱ班	高崎：倉渕小 校長 伊勢川聰	安中：坂本小 校長 安部基彦	安中：細野小 校長 長谷川好江	甘楽：秋畑小 校長 池田隆郎	西部教育事務所 指導主事 市村敏男	大会議室 (3階)
中学校	利根：片品中 校長 平賀信夫	利根：藤原中 校長 下田洋一	沼田：利根中 校長 角田和志	沼田：多那中 校長 狩野俊丈	利根教育事務所 指導主事 阿部詩子	和室 (1階)

7 公開授業

会場	教科等	学年	単元・題材名	指導者	場 所
西小	国 語	1	「むかしばなしがいっぱい」	教諭 干川 由紀	1年教室
田代小	理 科	6	「大地のつくりと変化」	教諭 高木 茂	理科室
干俣小	道 徳	6	「よりよい集団生活」4-(3) 主体的な協力	教諭 佐藤 俊宏	6年教室
嬭恋中	数 学	3	「相似な図形」	教諭 宮崎 和子 他2名	3年C組教室
	英 語	3	「Unit6 Break the Barrier」	教諭 宮崎 治香 他3名	3年B組教室

8 授業研究会

会 場	教 科	司 会	記 録	指 導 助 言 者	場 所
西小 (低学年)	国 語 (1年)	吾妻：嬭恋東小 校長 地田 功一	吾妻：岩島小 校長 武藤 榮一	利根教育事務所 指導主事 阿部詩子	会議室
田代小 (高学年)	理 科 (6年)	吾妻：鎌原小 校長 山口 廣	吾妻：六合中 校長 黒岩 祐子	中部教育事務所 指導主事 狩野大樹	集会室
干俣小 (高学年)	道 徳 (6年)	吾妻：長野原第一小 校長 安済 博明	吾妻：草津小 校長 高平 裕寿	西部教育事務所 指導主事 市村敏男	ワークルーム
嬭恋中	数 学 (3年)	吾妻：岩島中 校長 森田由紀夫	吾妻：草津中 校長 市村 隆宏	吾妻教育事務所 指導主事 浅井広之	3年A組 教室
	英 語 (3年)	吾妻：中之条西中 校長 小野塚則幸	吾妻：長野原西中 校長 坂井 宏治	義務教育課 指導主事 津久井貴之	2年A組 教室

〈2〉 提案要旨

《小学校1班》

社会性や豊かな人間性を育む学校経営の推進

～小規模校の特色及び地域の教育力を生かした取組を通して～

中之条町立伊参小学校長 澤野 尚人

1 学校の概要

本校は、中之条町の中心地より北に5kmほど上った山間に位置し、校区には「富沢家住宅」や「白久保のお茶講」など文化財が多い。近年は少子高齢化が進み、今年の児童数は39名である。複式学級解消特配が配置され、6学級を編制している。三世代で生活する家庭が多く、保護者や地域の方々の学校教育への理解や協力しようとする意識が非常に高い。来年度から中之条小学校と統合することになっており、大きな集団の中でも自分の考えや思いを表現できる力や物怖じせず、自主的に行動する力を育成することが必要である。

2 実践の概要

(1) 交流学习の取組

中之条高校との交流学习に平成15年度より取り組んでいる。りんご栽培や馬とのふれあい体験、環境学習、稲作体験などを高校生と一緒に学習している。また今年度は中之条小学校との交流学习にも取り組んでいる。各学年ごとに、1・2学期は校外学習や遠足などの行事で交流し、2・3学期は教室での授業や給食などで交流している。

(2) 地域連携の取組

本校は作物の栽培や地域の伝統文化、野鳥観察会、ミシン指導など様々な学習場面で地域の方々に児童への指導をお願いしている。地域の人との触れ合いによって、人との接し方なども身に付け、ふるさとの自然や伝統文化の学習からふるさとへの理解も深めている。

(3) 縦割り班活動（団別活動）の取組

本校は3つの団に分かれて活動する団別活動に年間通して取り組んでいる。緑の少年団活動や朝マラソン、団別給食などである。団対抗の運動競技も年間4回実施しており、団員同士が力を合わせて取り組み、高学年児童のリーダーシップが発揮されている。

(4) 特別活動での取組

各種の集会活動では、児童一人一人が全校の前で発表する機会が与えられる。また学校行事でも児童代表の挨拶を高学年の児童は経験するなど、大勢の前で発表する経験を積むことができる。

(5) 表現力育成の取組

毎朝5分間の音読タイムを週時程表に位置づけ、音読活動を行っている。月1回は音読集会で全校児童で音読を行い、作品に合わせて表現を工夫した発表も行われている。また校内研修では「自分の思いや考えを自信をもって伝えられる児童の育成」に向けて、児童同士が互いの考えを交流する場面の工夫を中心に取り組んでいる。

4 まとめと今後の課題

様々な交流学习や地域連携の取組によって、多くの人と触れ合うことができ、その体験からよりよい人間関係を築く力や自分の考えを伝える力などを養うことができていると考える。また団別活動や特別活動の取組で児童の自主性や協力性を養うことができていると考える。ただ、社会性や豊かな人間性の育成には家庭との連携も必要であり、いかに連携を図るかは今後の課題である。また、本校の取組は少人数だからできたものが多いが、これまでの取組を統合した学校での活動にいかに引き継ぐかも今後の課題である。

《小学校2班》

一人一人のよさを伸長する学校づくり

～少人数校の特色と地域の教育力を生かして～

安中市立坂本小学校長 安部 基彦

1 学校の概要

本校のある坂本地区は、古代より交通の要衝の地であり、かつては宿場町として栄えた。近年は信越線横川・軽井沢間の廃止、上信越道の開通など交通事情の変遷、その他の社会状況の変化によって過疎化・高齢化が進んでいる。しかし人々は、昔からの祭りに加え、中山道の面影復元、ホテルの里づくりなどの活動を通して、地域の活性化に取り組んでいる。本年度は明治8年の開校以来初めて入学生がなく、児童数は2～4年生が各1名、5年生2名、6年生4名の計9名であり学級数は3（2・3年、4・5年、6年）である。

2 実践の概要

(1) 主題設定の理由

少人数であるため、学習指導、生活指導等にきめ細かく手が入り、それぞれの力を伸ばしている。反面、多様な意見や考えに触れる機会が少なく、校内だけでの成長には限度がある。そのため、学校教育目標「たくましい実践力を持つ、心豊かな子どもの育成」に向けて学校の特色や地域の教育力をさらに生かしていくことが必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① 少人数校の特色を生かした校内での取り組み

- チャレンジ学習 火曜と木曜の業前に3名ずつの縦割りグループで高学年が低学年の面倒を見たり、互いに教え合ったりしながら漢字書き取り、算数ドリルの自主学習に取り組む。
- ランチルームでの全校給食 教職員も交えて会話をしながら食事を楽しんでいる。また給食の時間を利用して、それぞれの学年で学習したことなどの発表・報告などを行っている。
- 情報交換 職員会議、朝会だけでなく、気づいたことを随時出し合うことで常に情報を共有し、共通認識のもと全職員で児童に向き合うように努めている。

② 地域の教育力を生かした取り組み

- 地区公民館事業との連携 うちわ作り教室に参加したり、ふるさとを考える会の花作りに参加し、地域の高齢者と交流した。
- デイサービス訪問 校区内3か所のデイサービスに参加し高齢者との交流を行った。手作りのプレゼントを持参するとともに劇やダンスを披露した。
- 読み聞かせ 月1回、金曜日の業前に地域の読み聞かせボランティアに各クラスで読み聞かせをしていただく。子どもたちも感想を述べボランティアと交流をする。
- 運動会 事前準備、当日の係など青年団等地域の協力を得て実施した。終了後に児童、保護者、教職員が地域の方々とお茶を飲みながら一日を振り返り感謝の気持ちを表した。

3 まとめと今後の課題

少人数校の特性を生かしたこれまでの取り組みをさらに充実させるため、可能な限り情報を共有し、共通認識のもと全職員で教育活動にあたるよう努めている。教職員は坂本小の教育の改善のために様々なアイデアを出し努力を惜しまない。地域も我が町の学校、子どもたちのために協力を惜しまない。その中であって子どもたちは日々の学習、交流の機会に精一杯取り組んでいる。児童数の減少はいかんともしがたいが、どんな場面でも、自信を持って自分の力を発揮し伸ばしていける児童の育成に今後とも努めていきたい。

《中学校班》

小規模校における校内研修の推進

～小中併設校の特性を生かして～

みなかみ町立藤原中学校長 下田 洋一

1 学校の概要

本校は、小学生18名、中学生5名の小中併設校である。中学校長が小学校長を兼務、小中に教頭をそれぞれ配置し、教員及び非常勤講師をもって児童・生徒の教育活動に当たっている。

保護者や地域の方々は、地域の中の学校という意識が強く、学校行事等に対して大変協力的である。今後は日常的に保護者や地域の方が出入りしやすいような学校運営を考えていきたい。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

小中併設校の特性を生かした研修とはどうあるべきか、人数が少ない中で言語活動をどう充実させればよいのかを追究する必要があると考え、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① 組織の役割の明確化

＜研修推進委員会＞

- ・研修主題の設定、本校ならではの言語活動の具体化、研修推進計画の立案をする。

＜全体会＞

- ・授業研究会を中心に、研究授業の成果と課題を明確にする。

＜各学校部会＞

- ・子どもたちの発達段階や学習内容を明確にし、研究授業の計画を立案する。

② 具体的な研修推進への支援

○ 一人一授業公開を積み重ねるために

- ・次回の授業者に助言者を務めさせ、今回の授業の成果と課題を具体化し、自分の授業で工夫する点を述べさせるようにした。

○ 全体会の充実のために

- ・教科や学校の壁を越えて議論を深めるために、言語活動を次の6つの視点から分類した。

ア 体験から感じ取ったことを表現する。

イ 事実を正確に理解し伝達する。

ウ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

エ 情報を分析・評価し、論述する。

オ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。

カ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

3 まとめと今後の課題

研修推進組織の役割を明確にすることにより、研修の効率的な推進ができるようになってきた。また、次回の授業者が助言者となることによって、研究授業の成果と課題が具体化されるようになってきた。さらに、言語活動を6つに分類したことによって、教科の専門性だけでなく、言語活動そのものについても議論することができた。

今後は、本校ならではの言語活動を発達段階に応じて具体化し、実践していきたいと考える。あわせて、実践したことを盛り込んだ年間指導計画の作成を校内研修の取組の一つとすることによって、小中併設校ならではの年間指導計画を作成していきたい。

〈3〉 公開授業・授業研究会

① 嬭恋村立西小学校

1 学校の概要

本校は、南に浅間山、西北には吾妻山（四阿山）、白根山を望む吾妻川と干俣川の合流点に位置している。標高は902mで、大前、大笹の2地区を学区としている。大前地区は、嬭恋村のほぼ中央にあり、世帯数は408戸、人口1059人（平成24年3月末日）、農地が狭く半農で、給料生活者が多い。大笹地区の集落は、北国街道の宿場として発展してきた所である。世帯数467戸、人口1539人を有し、中原、山梨、北山は戦後の開拓地域である。高原キャベツのシーズンには、大型トラック・バス・自家用車の往来が激しい。

児童数は120名、学級数は7学級である。

2 研究大会へ向けての学校の取組

本校では、平成24年度の校内研修の研究主題を「基礎・基本の着実な定着を図るための指導の工夫」として、各教科等の指導において、ノートの取り方、宿題の出し方、発問の仕方、課題提示の仕方などについて指導の工夫を実践し、児童の基礎・基本の確実な定着を目指して取り組んできている。これまで、5年生の図工、2年生、3年生、4年生の算数、特別支援学級の国語等の研究授業を行い、研究を深めてきた。今回の研究授業でも、嬭恋村で語り継がれてきた昔話や民話を嬭恋村の方言で読み聞かせしていただき、地域性を生かした教材選択、地域の人材活用等の工夫を行っている。また、児童が楽しく読めるよう、挿絵などを工夫した「嬭恋の昔話」の絵本づくりを行うなど、読書環境を整える取組も行ってきている。

3 授業公開・授業研究会の様子

○ 小学校低学年部会（国語） 授業提案者 第1学年 指導者 干川 由紀

○ 単元名：むかしばなしを たのしもう

《育成を目指す言語能力》

【読むこと】

○ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。（C (1) カ）

【言語についての知識・理解・技能】

○ 昔話や神話・伝承などの文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

（伝国 (1) ア (ア)）

《授業改善の視点》

友だち同士で、読んだ本の中から好きな本を選び、紹介し合い、交流することで、自分が読んだことのない本に興味をもち、読書意欲を高めることができるであろう。

○ 本時のねらい：昔話を自分で選んで読み、気に入った本の題名や内容、好きなところを理由と共に紹介する。

○ 授業研究会では、「地域教材に目を向けたのは、とてもよかった。」「手作り民話の冊子は、挿絵が分かりやすく、児童が興味をもったのしく読める内容になっていた。」「好きな本を紹介する場面では、発表のマニュアルがあり、有効だった。」「質問のマニュアルもあると、さらに活発な意見交換になるのでは。」など、活発な意見交換がなされた。

〈本時の展開〉

過程	学 習 活 動	時間	学習への支援及び留意点 ●…支援 ○…留意点	評価項目（方法） ○おおむね満足
つかむ	○本時の学習課題をつかむ。	10分	○前時学習を振り返り、関心を高める。 ○短い昔話を全員で、音読する。	
	むかしばなしを しょうかいしよう		○本の題名、出てくる人、好きな理由などを発表できるよう例文を提示する。 ○話す時、聞く時の留意点を確認する。	
深める	○二人組になり、発表の練習をする。 ○クラス全体の前で発表する。 ○紹介された本の中で、読んでみたい本の発表をする。	30分	○隣同士で、発表の練習をさせる。 ●発表を聞く人は、できるだけ質問をしてあげるよう助言する。 ●発表する人は「質問してもらったことを付け足せるといいね」と助言する。 ●机間指導をしながら、話せない児童に対して、黒板に掲示してある話形に沿って話すように声をかける。 ○本がある児童には、本を見せながら発表させる。 ○5人ずつ、クラス全体の前で発表させる。 ○聞く人は、集中して聞けるように話の途中では鉛筆を持たせず、5人の発表が終わったところでワークシートに読んでみたい本の題名を記入させる。 ○読んでみたい本は、何冊あってもいいことを伝える。 ●発表が難しい児童に対しては、一緒に発表するなど、個別に支援をする。 ●読んでみたい本が書けない児童に対して本の表紙を見せて、思い出させる。 ○読んでみたい本の記入がすんだところで、次の5人の発表をさせる。 ○数名に、紹介された本の中で、読んでみたい本の発表をさせる。	読 ○本を選び、3文以上で好きなところを理由とともに発表している。また、読んでみたい本について発表している。（観察）
まとめる	○次時の学習の確認をする。	5分	○次時には、面白かった本を読んでも確認することを確認する。	

② 嬭恋村立田代小学校

1 学校の概要

本校は、嬭恋村の西部長野県境の国道144号線沿いにある。浅間山、四阿山（吾妻山）の裾野に広がる標高1200mの高原地帯で、キャベツを中心とする日本有数の高原野菜の大産地を形成している。専業農家が世帯数の半数を占めている。鹿沢温泉、湯ノ丸牧場、スキー場をもつ観光地でもある。学校を中心に集落が形成されており、通学上也便利であるが、旧鹿沢温泉や古永井地区はスクールバス通学をしている。

地域と学校は、行事等連携を密に行っている。運動会やスキー大会は田代区挙げての大きなイベントになっている。学校教育に対して関心が高く、協力的である。

2 研究大会へ向けての学校の取組

本校は「だれでもがわかる」授業を目指して取り組んでいる。気になる子、支援を要する子にとってわかる授業、ひいては、クラス全体の子にとってわかる授業を実践している。

今年度は、理科専科特配が配置されており、地域の教材を活かしたわかる授業にも取り組んでいる。

児童や地域の実態を捉え、田代、嬭恋の地域の特徴を考慮し、わかりやすい地元教材開発を推し進めている。



3 授業公開・授業研究会

6年理科「大地のつくりと変化」

指導者 高木 茂（児童数12名）

授業の視点

単元のまとめの場面において、身近な火山の働きでできた地層に着目させることは、嬭恋村の土地のてき方を推論することに有効であったか。

<本時のねらい>

嬭恋村の土地のてき方を、身近な火山の働きをもとに推論する。

<展開>

学習活動	学習活動への支援及び留意点、気になる児童への配慮
○ 嬭恋村は何の働きでできているのか確認する。 ・ 火山のはたらきでできている。	○ 水の働きでできている場所もあるが、火山の働きで多くの場所はできているので、嬭恋村は火山の働きでできていることをおさえさせる。
○ 嬭恋村の大地をつくった火山を考える。 ・ 浅間山 ・ 草津白根山 ・ 湯ノ丸山 ・ 四阿山	○ 嬭恋村をつくっている大地の構成物がどこからのものか考えさせる。 ○ 嬭恋村が、火山の働きでできていることがわかる写真を事前に用意しておく。 ○ 写真を先に示し、火山の名前を答えさせる。 ・ 大笹の嬭恋村運動公園・・・浅間山 ・ 瀬戸の滝・・・草津白根山 ・ 湯ノ丸スキー場の嬭恋側・・・湯ノ丸山 ・ 田代湖口にある神社の横・・・四阿山

<p>①予想：ノーヒントで推論する</p> <p>○各自で孀恋村の土地のでき方を推論する。</p> <p>○カードに記入し、黒板にはる。</p> <p>○自分で推論したでき方を発表・説明する。</p> <p>②観察：露頭写真をもとに推論する</p> <p>○層序がわかる写真（孀恋村の各地点の露頭写真）を見て、自分でもう一度推論する。</p>	<p>○土地のでき方を推論する時に、4つの火山に「古孀恋湖」も加え、5つのキーワードとする。（孀恋村の土地のでき方を推論するうえで、「古孀恋湖」は外せないと考えするため）</p> <p>○5つのキーワードを使って、各自で土地のでき方を推論させる。（ノーヒントで）</p> <p>○今までの学習で使用した柱状図や写真等を根拠に推論させる。</p> <p>○今までの学習からでは、正確にすべての層序が決まらないが、自分で推論することを大切にさせる。</p> <p>○推論した答えはカードに書かせ、黒板に磁石ではらせる。</p> <p>○指名して、自分で推論したでき方を発表・説明させる。</p> <p>○孀恋村の各地点の露頭の写真をもとに、各自ででき方を推論させる。一人で推論が難しい場合は班で相談させる。</p> <p>○写真だけでは層序の判別ができないと思うので、簡単な露頭のコメント等を付け加えておく。</p> <p>○簡単な意見交流等を通して、層序変更がある場合はもう一度カードに書かせ、はらせる</p>
<p>○孀恋村の土地のでき方を知る。</p>	<p>○現在考えられている層序と自分で考えた層序が違っていても答えだけにこだわらないように指導する。</p>
<p>○授業を振り返り、ノートに感じたことを書く。</p>	<p>○本時の活動を振り返り、今後の学習や生活との関連への意識を高めることができるようにする。</p> <p>○地層が広がりをもって分布していることや、自然の力の大きさ、時間的スケールの大きさなどにも気付かせるようにする。</p>

〈授業研究会の様子〉



授業者の説明など全体会の後、4つの班に分かれ、授業研究会をもった。授業の視点「興味関心をもって科学的な推論を進める工夫」等の3観点に沿って協議を行った。

理科で推論、つまり自分の頭で考え、予想しある結果を導き出すことを通して、科学的な思考力を育成していく。その活動を通して言語能力も培っていく。推論をするには、身近な地元の教材は、児童に興味関心を引き起こし深く考えることに最適である。

地元にある豊かな教材を活かしていくことが重要である。田代地区には、豊かな自然が広がっている。その豊かさを活かしていくことが、地元田代の児童をたくましく豊かに育てていくことにつながっていく。児童は地元で育てていく。このことを大事にしていきたい。

③ 嬭恋村立干俣小学校

1 学校の概要

本校は嬭恋村の西北に位置し、その眼前には浅間山を中心にパノラマが広がっている。児童が生活する干俣区は、標高1000m前後で、本村・上ノ貝・仁田沢の3集落からなっている。区民の半数は高原野菜を栽培する農家である。また、区民は教育活動に大変協力的である。現在、全校児童数は57名であり、3・4年生が複式学級となっている。児童は、明るく素直であり、朝マラソンを積極的に行ったり、伝統あるスケート授業にも取り組んだりしている。

2 研究大会へ向けての学校の取組

本校では、「確かな読解力を身につけた児童の育成～文章や資料を読み取るための学び方の指導を通して～」を研修主題として、授業改善に取り組んでいる。特に、「自分の思いや考えを表現すること」に重点を置いている。

へき地小規模校として、少人数であるという実態の中で児童の主体的な学習をどう進めていくかは大きな課題となっている。本研究大会を迎えるに当たって、児童の「自分の思いや考えを表現すること」の手立てとして、教材の分析、指導の流れの具体化などを中心に授業づくりを行ってきた。

3 公開授業・授業研究会の様子

(1) 小学校6年(道徳) 授業提案者 佐藤 俊宏(児童数12名)

主題名 よりよい集団生活(内容項目4-(3)主体的な協力)

資料名 「メンバーとして」(出典 「わたしたちの道 6年」 教育出版)

<授業の視点>

描いてきた絵に対してメンバーからいろいろな意見が出た場面で、主人公が言いたかったけれどがまんして言わなかったことを想像させることにより、グループのために力を尽くそうとする主人公の気持ちに気付かせることができるであろう。

<目標>

自分の利益を優先させるのではなく、集団のために力を尽くし、主体的に協力しようとする心情を育てる。

<展開>

過程	学習活動		主な発問 (予想される児童の反応)	指導上の留意点 及び支援の工夫
導入	1. アンケート調査の結果について感想を述べ合う。	7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アンケートの結果を見て感じたことを発表してください。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・そんな考えもあるんだ。 ・その考えて合っているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果(立候補しなかった理由)を導入で取り上げることで、児童の興味・関心を高めるとともに、扱う主題を焦点化させるための一助とする。
展開	2. 資料を読み、主人公の心の動きを考える。	33分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リーダーに頼めばいいという意見に賛成しようと思った時、どんな気持ちだっただろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーなんだからやればいい。 ・リーダー、お願い! ・ぼくなんかよりはリーダーの方がいいに決まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は前半部と後半部に分けて提示する。 ・ワークシートに記入させた後に意図的に指名して発表させることで、全体の前での失敗を防ぎ、自信をもって発言させる

	3. 今までの自分は どうであったか 振り返る。	5分	<p>「それでいいのか。」という心の声は、どんな気持ちから出た言葉だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーだからといってやってもらうの？ ・自分はやらなくていいの？ ・自分が率先してやればいいじゃん。 <p>主人公の「言いたかったこと」って何だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日、夜、遅くまでやったのに。 ・だったら、誰かやれよ。 <p>「じゃあ、もう一度考えてみるよ。あしたまでにね。」と主人公が言ったのは、どんな気持ちからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのためにやったのだから文句を言わないで。 ・「みんなのために」と思ってやったことだから、もう一度頑張ろう。 <p>この前の長縄跳びの時のことを振り返って、「こういう考え方をしていればよかったのか」と気付いたことや、「自分の行動にはこういうよさがあったのか」と気付いたことをワークシートに書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に回し役をやれば、もっと早く練習ができてみんなのためになったんだな。 ・「自分は跳びたい」という考えでは、みんなのためにならないんだな。 ・回し役をやったことは、みんなのためになっていたんだな。 ・回し役をやったからあれだけたくさん跳べたのかもしれないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」が意見を言われて心の中で言った言葉を想像させ、その後、後半部を提示することで、集団に主体的に協力しようとする心情を一段と育めるようにする。 ・長縄跳びをした時のことを振り返ることで、今回の道徳的価値と自分との関わりをとらえさせる。
終末	4. 教師の説話を聞く。	5分	<p>縄の回し役を引き受けた二人の気持ちを紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も今度からは積極的に協力しよう。 ・クラスのためにチャレンジしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動への励ましや意欲につながるように言葉かけをする。

<評価>

自分の利益を優先するのではなく、集団のために力を尽くし、主体的に協力することの大切さに気付くことができたか。

<授業研究会の様子>

4つのグループに分かれ、「児童の思考の流れを意識した展開」「自分自身を振り返る手立て」「少人数での学び合い」を研究協議の視点として協議した。資料を前半・後半に分けた手立て、発問の吟味、導入に提示したアンケートの効果、児童の学び合いを進めるための手立てなど、活発な協議がなされた。特に、主題に迫るために、読み物資料を実態に合わせ工夫・改善したことの有効性や子どもたちの積極的な授業態度については、どの班も良い評価を与えていた。また、児童の思考の変容を取り上げるなど、より主題に迫るための工夫なども提案されていた。

指導助言者からは、「日常の学級経営の大切さ」「児童の実態を踏まえ、日常生活を意識した授業づくりの大切さ」「児童の思考を大切にしたい学び合いの場面の設定」「学習形態、発問の工夫」等のご指導をいただいた。

④ 嬭恋村立嬭恋中学校

1 学校の概要

本校は、昨年度末に閉校した嬭恋村東・西中学校が統合し、嬭恋村立嬭恋中学校として本年度開校した。通学区は嬭恋村全域となり、東小・西小・田代小・干俣小・鎌原小の五校の卒業生が本校に通学している。生徒はスクールバス・徒歩での通学方法となり、生徒の78%はスクールバスで登下校している。生徒数は264名（男子141名・女子123名）で、明るく素直であるが、やや自主性に乏しい面があるので、主体的に考え、生き生きと活動できる生徒の育成を目指している。

2 研究大会に向けての取組

本校では、嬭恋村という山間地域の特色を活かし、嬭恋高校との交流を通して徳・体・知のバランスのとれた生徒を育てることを目標に「嬭恋地域連携型中高一貫教育」の取組をおこなっている。24年度の重点目標として中学校統合に対応した連携の推進を柱として、「交流授業及び授業参観、教科間交流の充実」や「生徒間・教職員間の交流の推進」等を掲げ実践している。本年度は数学科・英語科における交流授業を中心に、中・高教諭によるTT指導のよさを生かした指導方法を研究し、実践することで、確かな学力を身に付けた生徒の育成及び中学校から高等学校への滑らかな移行を目指したいと考えている。

3 公開授業の概要

【数学科（3学年）】

(1) 本時の目標

- これまで学習してきたことに関する問題を、既習事項の根拠を明らかにしながら考察することができる。

(2) 準備

教科書、ノート、問題集、プリント、図形の性質カード

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点・支援			評価項目
		T 1	T 2	T 3	
5	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の復習と本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 性質カードを使いながら、既習内容を確認する。 本時は、既習事項を使ったいろいろな問題に挑戦することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取り組みが遅れがちな生徒の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取り組みが遅れがちな生徒の支援を行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 問題プリントを見て、自分の希望コースに分かれて問題練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問題プリントの配布をする。 			

<p>学習課題</p> <p>・今まで学習したことを用いて、問題にチャレンジしよう。</p>					
20	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形と比 ・平行線と比 ・三角形の相似条件 ・中点連結定理 	<p>3つのグループに分かれて問題解決をする。</p> <p>①自力解決をするグループ（主に T3）</p> <p>②生徒同士で相談をするグループ（3～4人）（主に T2）</p> <p>③教師の支援を必要とするグループ（主にT1）</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や自分の考えを出し合って、自分の理解の程度に応じた問題を、根拠を明らかにしながら進んで解こうとしている。【関心・意欲・態度】（観察）
	<p>・ T1、T2、T3については、必要に応じて、どのグループにも対応していくが、主には①～③による。</p>		<p>③教師の支援を必要とする生徒を中心に進める。</p> <p>③基本的な問題を中心にして、生徒のもっている図形の性質カードを用いて、解き方の根拠を明らかにしながら進めていくようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士のグループの調整・支援を行う。 ②教え合うときは、必要に応じて図形の性質カード等を使い、解き方を確認させるようにする。 	
20	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で同じ問題に取り組む。 ・相似の証明等 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項やコース別にやったことを生かして、生徒とのやりとりの中で、根拠を明らかにしながら取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の考えを板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明らかにしながら考察することができる。【数学的な考え方】（観察）
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の整理と確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察による学習状況の把握と評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の相似の学習の高校へのつながりについて話し、興味を広げる。
<p>気付かせたい考え方</p> <p>・相似条件を明らかにして、三角形の相似を証明する考え方</p>					

(4) 授業研究会の協議内容

宮崎和子教諭は、「既習事項や性質カードを使い問題に取り組み、相似な図形の性質や平面図形の基

本的な性質に関心を持ちながら、根拠となる考え方を説明したり証明したりすることができる。」という授業の視点を定め、授業を展開したと説明する。その後協議があり、吾妻教育事務所の浅井指導主事より「指導者の意図がはっきりしている指導案であった。また、T₁～T₃の役割分担が明確になっていたの、生徒一人一人にきめ細かな指導ができていた。」「はばたく群馬の指導プランの『筋道を立てて考えたり、説明し合ったりする活動を充実させる。』の部分に積極的に取り組んだ授業であった。」「今後の課題は、評価のより確かな妥当性や客観性をT₁、T₂などの先生で追求して欲しい。」等の講評をいただいた。

【英語科（3学年）】

(1) 目標

ヘレン・ケラーの生涯に触れ、生徒一人一人が感じたことや考えたことを既習表現を用いて簡潔に表現することができる。

(2) 準備

指導者：教科書、ワークブック、ワークシート、DVD、本

生徒：教科書、ノート、ワークブック、ファイル、辞書（必要に応じて）

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点				評価項目
		T1の指導・支援	T2の指導・支援	T3の指導・支援	ALTの指導・支援	
5	○Greeting ・気持ちよくあいさつをする。 ○Warm up (One Question for teacher)	・ Warm up のやり方を説明する。	・ 担当する生徒からの質問に答える。	・ 担当する生徒からの質問に答える。	・ 担当する生徒からの質問に答える。	
7	○ヘレン・ケラーに関する教師たちのモデル会話を聞く（2回）。	・ モデル会話を注意して聞くように伝える。 ・ T1のパートを読む。	・ T2のパートを読む。	・ T3のパートを読む。	・ ALTのパートを読む。	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>T1: Look at this. This is the book I bought on the Internet. T2: Oh, I see. What is it about? T1: It's about Helen Adams Keller. Do you know her? T3: Yes, I do. She lost her sight and hearing when she was 1. And she couldn't speak. T1: Do you know anything about her, Mr. Yumoto? T2: Yes, I know her. She has visited Japan three times. T1: Yes, that's right. Scott, do you know her? ALT: Yes, I do. (Your opinion)</p> </div>						
	・ 対話の内容を確認する。	・ 対話の内容を質問する。	・ 机間巡視で生徒の様子を観察して集中	・ 机間巡視で生徒の様子を観察して集中	・ 机間巡視で生徒の様子を観察して	

			を促す。	を促す。	集中を促す。	
15	○ヘレン・ケラーについて自分の考えを深める。 ・教師が本「ヘレン・ケラー自伝」について紹介して彼女の生涯について確認する。	・一度見たDVDの感想を思い出させ、本の紹介をする。 ・ワークシートを用いて補足しながら確認する。	・机間巡視で生徒の様子を観察して集中を促す。	・机間巡視で生徒の様子を観察して集中を促す。	・机間巡視で生徒の様子を観察して集中を促す。 ・教師達のモデル会話や関連する語句の発音を確認する。	
22	●Writing a report about Helen Keller (グループ学習)	・ヘレン・ケラーについて自分が感じたことや考えをワークシートのレポートにまとめるように伝える。 ・担当するグループのレポートを適宜支援する。 ・レポートが完成したらその音読練習をするように伝える。	 ・担当するグループのレポートを適宜支援する。	・担当するグループのレポートを適宜支援する。	・机間巡視で生徒のレポートを支援する。 ・レポートが完成した生徒の音読を聞く。	表 既習事項を用いて自分の感じたことや考えを簡潔に表現している。 (観察・ワークシート)
1	○本時のまとめと次回の連絡 ○Greeting	・次回の連絡を行う。				

(4) 授業研究会の協議内容

宮崎治香教諭は、「ヘレン・ケラーの生涯に触れて生徒一人一人が感じたことや考えたことを既習表現を用いて簡潔に表現しやすくするために、モデル対話とワークシートの工夫は有効であったか。」という授業の視点を定め、授業を展開したと説明する。その後協議があり、群馬県教育委員会義務教育課津久井貴之指導主事より「T₁～T₄の役割分担をはっきりし、グループ活動で英作文に取り組ませるという強い意志を感じさせる授業であった。」「ワークシートについては、初めて取り入れる形式であれば分量・モデル文について更に検討が必要である。」「グループ学習については、個人で考える時間を確保することが必要である。」等の指導をいただいた。

Ⅲ へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉 Aブロック

- 1 趣 旨 地域の特性を生かしたへき地教育の推進を図るため、職員の研修を深め、資質の向上に資する
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 神流町教育委員会
- 4 日 時 平成24年8月6日（月） 9：30～12：00
- 5 会 場 神流町恐竜センター・活性化センター（所在地：神流町神ヶ原51-2）
- 6 参加者 高崎市、安中市、甘楽郡、多野郡のへき地小中学校教職員（12校、約90名）
- 7 日 程
 - (1) 受付 9：30～9：45
 - (2) 開会行事 9：45～10：00
 - ① 開会の言葉（進行）
 - ② 会長挨拶 神流町立中里中学校長 新井 俊幸
 - ③ 来賓挨拶 神流町教育委員会教育長 齋藤 義久 様
 - ④ 日程説明 神流町立万場小学校長 佐藤 裕彦
 - ⑤ 閉会の言葉（進行）
 - (3) 全体会 10：00～11：00
 - ① 講師紹介 上野村立上野中学校長 飯出 哲夫
 - ② 講 話 演題：「へき地学校教師に期待する」
講師：元全国へき地教育研究連盟会長、前上野村教育長 西澤 晃 様
 - ③ 謝 辞 甘楽町立秋畑小学校長 池田 隆郎
 - (4) 現地研修会 11：10～12：00
 - ① 講 義 「恐竜化石について」
講師：久保田 克博 様（神流町恐竜センター学芸員）
 - ② 現地研修 恐竜センター見学



8 講話の内容

演題：「へき地学校教師に期待する」

- ・ 出会いを大切に
- ・ 今、へき地学校は
- ・ へき地教育振興法
- ・ 山川武正先生（元県教育長）と渡辺ユキ先生（元全へき連終身顧問）
- ・ へき地は教育の原点
- ・ 小さな学校だからこそできる教育（子どもが主役）
- ・ へき地学校での経験を誇りに（子どもに慕われ、いつまでも忘れられない教師）

9 まとめ

前半の講話では、長くへき地教育に携わった経験をもとに、へき地教育の歴史や少人数のよさを生かし子どもが主役となれる教育について、お話いただいた。

後半は、神流町で発見されたサンチュウリュウをはじめとした恐竜・化石の話やモンゴルでの化石発掘の説明をお聞きしたあと、恐竜センターを見学した。

興味深く貴重な話を聞くことができ、有意義な研修を実施することができた。

（文責 神流町立中里中学校長 新井 俊幸）

〈2〉 Bブロック

- 1 趣 旨 地域の実態に即したへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質の向上を図る。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟、吾妻郡へき地教育研究会
吾妻東部・西部へき地教育センター
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会
- 4 期 日 平成24年8月9日（木）
- 5 会 場 吾妻郡生涯学習センター「ツインプラザ」交流ホール
- 6 参加者 吾妻郡へき地学校教職員他 150名
- 7 日 程

- (1) 受 付 13:30～13:50
- (2) 開会行事 14:00～14:10
- 開会の言葉
 - へき地教員の歌斉唱
 - あいさつ 吾妻郡へき地教育研究会 会長 高橋 通泰
 - 来賓あいさつ 吾妻教育事務所 所長 桑原 三七次 様
- (3) 参加報告 14:10～14:30
平成23年度全国へき地教育研究大会北海道大会の報告
発表者 東吾妻町立岩島小学校 黒岩 洋一 教諭
- (4) 講演会 14:40～16:10
- 演 題 「今なぜ語りか ～民話を通して子どもたちに夢を～」
 - 講 師 六合の文化を守る会 事務局長 山本 茂 氏
語りべ 黒岩 いち さん、市川 美代子 さん、安原 キヌエ さん

8 まとめ

全国へき地教育研究大会の報告（北海道大会）では、黒岩洋一先生から参観した授業の様子をスクリーンに映しながら、その授業の工夫点等をていねいに説明していただき、大変参考になった。

講演会では、六合の文化を守る会の山本茂様と語りべの方々にご講演及び実際の民話の語りを聞かせていただいた。山本様からは、「民話との出会いについて」、「民話とは」、「今なぜ語りか」といった内容の話があり、民話を子どもたちに読み聞かせた実践などを通して、子どもたちに心の教育を行ったことなどが話された。この講演を通して、民話はその時代、その地域に生まれ育ち、厳しい自然環境や社会環境に立ち向かい、それを乗り越えて必死で強く生きようとするところから生み出された知恵や心の在り様が形となって次代に語り継がれてきたのだということを知ることができた。語りを通して、人と人がふれ合い、絆を深めることができる空間をつくるのが、今の子どもたちにとって大切であるというお話もあり、これからのへき地学校教育の在り方への示唆をいただいた。講演の後半部分は語りべの方々から民話の語りがあり、その語りはなつかしい昔を思い起こさせ、温かな気持ちにさせる力があつた。民話の素晴らしさを改めて感じた講演会であった。



（文責 東吾妻町立坂上中学校長 牛木 雅人）

〈3〉 Cブロック

- 1 趣 旨** 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員が、へき地の特性を生かす教育について研究するとともに、武尊牧場周辺の武尊山の自然を現地研修し、教職員の資質の向上を図る。
- 2 主 催** 群馬県へき地教育研究連盟 利根・沼田・渋川へき地教育研究会
- 3 後 援** 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 片品村教育委員会
- 4 期 日** 平成24年8月10日（金）
- 5 会 場** 武尊牧場 ～ 武尊山
- 6 参加者** 利根・沼田・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員 58名
- 7 日 程**
- (1) 集合時刻 8：45
- (2) 開会行事 8：45
- ① へき地教師の歌「太陽となろう」
- ② あいさつ
- ・群馬県へき地教育研究連盟理事長 吉野 隆哉
 - ・片品村教育委員会教育長 星野 準一 様
- ③ 講師紹介
- ・片品村教育研究会会長 梅澤 克之
- ④ 日程説明
- ・片品村教育研究会書記 菅原 慶成
- (3) 現地研修
- ・講師「水源の森コース」（三合平～水源の森の泉往復3km）
 - 1 斑 片品山岳ガイド協会 萩原 壮児 様
 - 2 斑 片品山岳ガイド協会 伊藤 邦利 様
 - 「牧場コース」（牧場周囲1.5km）
 - 片品山岳ガイド協会 千明 太郎 様
- (4) 閉会行事 11：45
- 講師へのお礼の言葉
 - ・ブロック別実践研究集会担当校長 梅澤 克之
- (5) 解散 12：00

8 まとめ

今年度のCブロック実践研究集会は、片品村教育研究会フィールドワーク研究会と兼ねて実施した。

自分の脚力に合わせて、コース設定し、



武尊牧場周辺の散策を行った。高原のさわやかな夏空の下、それぞれのコースとも、片品山岳ガイド協会のベテランガイドが、熱心に説明をしてくださり、樹木や草花の名前や特徴を学ぶことができた。

（文責 片品村片品南小学校長 梅澤 克之）

Ⅳ 第61回全国へき地教育研究大会（和歌山県大会）

〈1〉 概要報告

孺恋村立干俣小学校長 山口 暁夫

第61回全国へき地教育研究大会(近畿へき地教育研究大会、和歌山県へき地複式教育研究大会)が、文部科学省、和歌山県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催で、平成24年10月18日(木)～19日(金)の2日間にわたって和歌山県田辺市、西牟婁郡で開催された。

1日目は、田辺市の紀南文化会館を会場に、全国のへき地・小規模校、和歌山県内各学校から総勢1100名を超える人数で盛大に行われた。本県からは、校長・県教委指導主事の8名が参加した。午前中の全体会に続き、午後は全国第7次研究推進計画研究課題別に6つの分散会が開かれた。2日目は、11の小中学校の分科会場で公開授業や各公開小中学校の研究発表や熱心な協議が行われた。

第1日目(10月18日)「全体会・分散会」

全体会開会式は、開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者から、文部科学省初等中等教育局教育課程課長、和歌山大会長・和歌山県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があり、和歌山県知事及び田辺市長から来賓の祝辞をいただいた。

基調報告では、まず全国へき地教育研究連盟研究部長から、第7次長期5か年研究推進計画(平成21～25年)の概要報告があり、続いて和歌山県へき地複式教育研究会研究部長から、和歌山大会主題「へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、地域に根ざした教育実践を深め、主体的・創造的に生きる子どもの育成」、大会スローガン「紀の国わかやま発 子どもたちの未来を拓くひたむきな人間力を育む教育」をもとにした和歌山県の取組に関する報告がなされた。

講演は、「言葉の力を高める言語活動の充実」と題して、横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター長 高木 展郎先生からお話をいただいた。講演の主な内容としては、「今の時代が求める学力」において、「知識の習得と再生から思考力・判断力・表現力の時代へ」、「考えること、コミュニケーションという活動を通して、各教科で求める能力の育成」、「ことばを用いた学習活動の充実→各教科等における言語活動の充実」という視点をもつことの必要性をご指導をいただいた。また、「思考力・判断力・表現力」を育成していくための言語活動の充実では、「言語活動を行うこと自体が目的ではない、あくまで、各教科で育成すべき学力を言語活動を通して行うこと」、学習評価の「表現」では、「思考・判断した過程や結果を言語活動のなかで児童生徒がどのように表出しているかを内容としていること」、さらに、児童生徒の思考を支えていくためには、「児童生徒に『考え』をもつ時間と場を保障すること」などのご指導をいただいた。

講演会終了後、次回開催地である三重大会実行委員長より挨拶があり、三重大会研究部長が分科会会場の紹介を行った。最後に和歌山大会事務局長より三重大会事務局長へ大会旗が引き継がれ、全体会を終了した。

アトラクションは、田辺市立近野小学校全児童、近野獅子舞団により、「野中の獅子舞(無形文化財)」が披露された。

午後は、全国第7次研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、近畿ブロック1校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

第2日目(10月19日)「授業公開・分科会」

2日目の前半は、和歌山県下の11校(A田辺市立龍神小学校、B田辺市立龍神中学校、C田辺市立秋津川小学校、D田辺市立長野小学校、E田辺市立三里小学校、F田辺市立本宮中学校、G田辺市立本宮小学校、H田辺市立近野中学校、I田辺市立富里小学校、J白浜町立椿小学校、K白浜町立三舞中学校)で、それぞれ4～7授業、計52の授業が公開され、その後A～Kの11分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

〈2〉 分科会報告

B分科会

道徳の時間を核として、教育活動全体を通じて行う豊かな心の育成

～「人」・「自然」・「命」とつながる豊かな心づくり～

神流町立中里中学校長 新井 俊幸

1 会場校 和歌山県田辺市立龍神中学校（生徒数102名 4学級 職員数11名）

2 地域・学校の概要

平成19年に3中学校が統合し、龍神中学校となった。紀伊山地から紀伊水道に流れる日高川上流部に位置し、校区は広大で、一番遠い生徒は約28kmの通学距離があり、約3割の生徒が3路線のスクールバスで通学している。

平成19・20年度には、文部科学省から「豊かな体験活動推進事業～仲間と学ぶ宿泊体験教室推進校～」の研究指定を受け、研究に取り組んだ。さらに、平成21・22年度には、「児童生徒の輝く心育成事業」の研究指定（文科省）を受け、豊かな体験活動の取り組みを進めてきた。また同じく、2年間、田辺市教育委員会の研究指定校として「道徳の時間を核として、教育活動全体を通じて行う豊かな心の育成」を研究主題に設定し、道徳教育の研究を進めた、平成23年度は、和歌山県教育委員会から「道徳教育研究協力校の指定を受け、道徳教育の研究を継続して進めてきた。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

全教職員が、道徳教育を教育活動全体を通じて行う意識を高め、各教科、総合的な学習の時間、特別活動において道徳的ねらいを明確にして指導に当たることを目指した。

今まで、「人」や「自然」に関わる体験活動や「命」の大切さを考える平和学習に積極的に取り組んできた。他者や社会、自然や環境とのかかわりの中で、生徒は、思いやりの心や規範意識、自然や文化を尊重する心、生命の大切さ、感謝の気持ち等を学び、道徳性を育てている。

全教職員の道徳教育への意識を高めること、体験活動を全教職員の共通認識のもとで充実させていくことは、「道徳の時間」の指導の質的向上と、教育活動全体で取り組む道徳教育の充実につながっていく。そして、そのことを通して生徒の豊かな心の育成を図る。

(2) 公開授業

公開授業Ⅰ 道徳 1～3年（4学級）

公開授業Ⅱ 特別活動（全校） 「文化祭に向けて」プレ発表会



4 所感

受付の体育館に展示されていた「美術作品」や「体験学習のまとめ」、玄関に飾ってある7万本のつまようじを使った「アート」が、私たちを迎えてくれた。木をふんだんに使った校舎内は、木の温もりと清潔感が感じられ、生徒に豊かな心が育成されていると感じた。

公開授業Ⅰは、各学年とも落ち着いた雰囲気の中で道徳の授業。ワークシートを使って一人一人に考えさせるとともに、グループや全体等、いろいろな学習形態を使った授業だった。

公開授業Ⅱは、文化祭に向けてのプレ発表会。ここでは特に、生徒と先生合同の全校合唱「大切なもの」「手紙」が印象に残った。全員が指揮者を真剣な目で見て一生懸命歌っている姿、そして声のハーモニーに心地よさを感じた。

公開発表が終わり、外に出ると雲一つない青空。下に見えるグラウンドでは、野球部が、次の日に行われる新人戦に向け、一生懸命練習に取り組んでいた。

C分科会

自ら求め、共に学び合う子の育成

～学びの基礎・基本の定着を図る授業の取り組み～

片品村立片品小学校長 吉野 隆哉

1 会場校 田辺市立秋津川小学校（児童数28名 4学級[3・4年・5・6年複式] 職員数8名）

2 地域・学校の概要

秋津川地区は田辺平野より北部に位置し、人口750人、世帯数313世帯(平成24年3月)である。高尾山の北側の山間を流れる二つの川に沿って民家が点在している。周りには自然がたくさん残っていて静かな風情も感じられる。地域の多くの家庭は米・梅・みかん・野菜などの田畑を持っているが、専業農家は少なく地区外に勤める人が多い。住民の教育に対する関心は高く、保護者だけでなく地域全体が学校教育に対して常に協力的である。

秋津川小学校は明治9年に開校され、昭和51年に開校100周年を迎えた。

児童は、明るく素直で、学年を問わず仲よく遊ぶ姿が見られる。また、中学校が隣接していることもあり、卒業生とも交流が深く、行事を小中合同で行うことも多い。

3 研究の概要

(1) 研究内容

研究主題の達成を目指し、学びの基礎・基本の定着、読む力・書く力の育成、児童が学習過程を把握した授業について国語科・算数科を中心に推進した。

授業研究の視点として

- 児童一人一人が単元全体の流れを把握した授業
- 児童一人一人が1時間の学習過程を把握した授業
- 書くことを大切にした授業
- 複式授業の特性を考慮した授業 の4点を設定し、授業改善に取り組んだ。

(2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 1年国語、2年算数、3・4年複式国語、5・6年複式算数
- ② 公開授業Ⅱ 「備長炭を紹介しよう」(全校児童、生活・総合的な学習の時間・音楽)

4 所感

公開授業Ⅰですべての学級が公開されたが、どの学級もすばらしい授業だった。特に3・4年複式国語、5・6年複式算数は、別の学習内容を同じ教室で一人の担任が行っていて、授業運営の難しさを感じた。しかし、児童は担任が他の学年の指導に当たっているときにもリーダーを中心に上手に授業を進めていた。リーダーが育っていて、学級の児童全員が主体的に学習に取り組んでいた。研究協議の中で低学年では日直など全員で交替しながらリーダーの経験をさせているということを知り、こつこつと積み重ねた指導でリーダーが育っているということ強く感じた。

また公開授業Ⅱでは、全校児童による「備長炭を紹介しよう」(生活・総合・音楽)が公開された。備長炭の歴史・製法や紀州備長炭記念公園のこと、備長炭をつかった品物などの紹介もあった。後半は備長炭を用いた「炭琴」の合奏を聴かせてもらった。炭とは思えない透き通った音色の合奏はすばらしく、学校として低学年から発達段階に応じた指導を積み重ねていることが伺えた。その後地域の「秋津川炭琴サークル」の皆さんの合奏も聴いた。備長炭は秋津川のシンボルだということである。その地域に根ざした活動に、地域と共に歩む学校の姿を改めて感じた。

D分科会

伝え合うことで自らの学びを深める子どもの育成

～確かな読みを培う国語の授業を目指して～

沼田市立平川小学校長 高橋 和広

1 会場校 和歌山県田辺市立長野小学校（児童数19名、複式3学級、職員数8名）

2 地域・学校の概要

学校が位置する長野地域は、田辺市内中心部から北東へ12kmほど離れたところに位置している。那須与一伝説に彩られた里、「古城梅」の発祥の里、ホタルの里として広く知られており、総戸数213戸、総人口524名（24年5月末調）である。20年前と比較すると、総人口の変化はあまりないが、児童数は減少の一途をたどっている。保護者や地域の人々は、学校に対し大変協力的であり、学校教育への期待が強い。

長野小学校は明治7年清瀧小学校として開校し、上長瀬尋常小学校、長野尋常小学校、長野国民学校、長野小学校とその名称を変え、地域の文化の拠点として130年余の歴史を刻んでいる。

現在、児童数は19名。昭和49年に建てられたゆったりとした校舎、緑の自然に囲まれた静かな環境の中で、のびのびと学習に励んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

伝え合うことで自らの学びを深める子どもの育成を目指し、国語科における確かな読みを培うために必要と考えられるPISA型読解力の向上を図るため、以下を研究の中心にして行う。

- ① 発問の工夫
- ② 直接指導の充実のための「用語・方法・原理原則」の指導
- ③ ワークシートの開発
- ④ 音読や朗読の充実

また、読解指導と音読や朗読の指導を双方向で捉え、授業ばかりでなく朝の活動等にも全校朗読や群読を設定するなど、特色を持たせ確かな読みへの取組を行う。

(2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ【国語】
1・2年 「くじらぐも」、「お手紙」
3・4年 「三年とうげ」、「ごんぎつね」
5・6年 「大造じいさんとガン」、「やまなし」
- ② 公開授業Ⅱ【群読】 全学年縦割り3グループ 「台本を作ろう～しゃぼんだま」

4 所感

公開授業Ⅰでは、全学級でわたりの授業を行っていた。直接教師が付いていなくとも子どもたちだけで学習課題を討論し、解決している姿に感心させられるとともに、教師が行う日常の学習訓練やワークシートの工夫・開発などの大切さ大変さを改めて認識した。

公開授業Ⅱは、全校群読だった。全校児童を縦割り3つのグループに分け、全体指導1名、職員が3グループに付き指導、グループ内は6年生が中心となり活動していた。子どもたち一人一人が自信を持ち、自分の言葉で詩の解釈を述べ合い、気持ちを込めて堂々と読み上げる姿を見たとき、確かな表現力が培われていること、長野小学校の実践研究が深まっていることを確認した。

F 分科会

広がる世界 伸びゆく個性 確かな学力 豊かな心

～ひとつのふるさと ひとつの学校 より豊かな教育環境を目指して～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 春田 晋

1 会場校 田辺市立本宮中学校（児童数78名 4学級 職員数12名）

2 地域・学校の概要

本宮中学校は、今年度旧本宮中学校と三里中学校が統合し、新「本宮中学校」として新しく開校したばかりの中学校である。ひとつのふるさとにひとつの中学校となり、素直で真面目で人懐こい生徒たちが、毎日、授業や部活動に熱心に取り組んでいる。

地元産の檜による美しい校舎は、熊野本宮大社のすぐ近くの高台に位置し、世界遺産の町並みを一望できる。昨年9月、紀伊半島を襲った台風12号により当地域は大変な被害を受けたが、人々が支え合い助け合う中で、ようやく日常の生活を送ることができるようになっている。

本宮中学校は、旧本宮中学校が取り組んできた「共有コミュニティ」の事業を継承し、保護者・地域と一体となった学校づくりに努めている。

3 研究の概要

(1) 研究の仮説

- ・統合に向けて様々な交流学習に工夫して取り組むことにより、生徒たちはスムーズにひとつになれるとともに、新たに広がる世界で切磋琢磨しながら自分を高めていこうとする生徒に育つだろう。
- ・生徒会活動を中心にして自分たちで新しい学校の決まりを考えていくことにより、主体的に物事を考え、より良い学校をつくっていこうとする生徒になるだろう。
- ・統合前の両校の良き伝統を継承し、さらに新たな取組を積極的に取り入れ発展させるとともに、地域とのつながりを一層強めることにより、生徒たちにとってより豊かな教育環境を築いていくことができるだろう。

(2) 公開授業

<公開授業Ⅰ>

【国語】2年 豊かなことば「短歌を創作しよう」

【技術・家庭】3年 豊かに、楽しく食べる「地域の食材とその調理」

<公開授業Ⅱ>

【数学】1年 方程式「数の輪をつくろう」

【技術・家庭】3年 豊かに、楽しく食べる「地域の食材とその調理」

4 所感

本宮中学校はへき地のよさを生かし、学校・家庭・地域が一体となり子どもたちを育てていこうという意気込みを感じられる学校であった。

公開授業では、和歌山県が進める人と人とのつながりを再構築することを目指した取組である「共有コミュニティ」を生かし、地域のボランティアが授業に協力していた。国語、技術・家庭では授業内容を発展させるゲストティーチャー型、数学では学習を支援するための学習アシスタント型の授業が行われた。ボランティアが授業へ協力することにより、個々の生徒への指導・支援が可能となるとともに、地域の人々と親近感が生まれている。学校が元気になることで、地域が元気になる、まさに地域の核として今後の発展を期待できる学校であった。

H分科会

保護者・地域と共にふるさとを愛し、心豊かでたくましく 生きる生徒の育成

安中市立松井田北中学校長 今井 典幸

1 会場校 和歌山県田辺市立近野中学校（生徒数14名 3学級 職員数9名）

2 地域・学校の概要

近野中学校がある近野(近露、野中)地区は、田辺市の市街地から北東へ約40kmの山間部に位置し、周りを紀伊半島の中央部を走る果無山脈に囲まれ、小さな盆地や谷間、傾斜地に民家が点在している。以前は、農林業の盛んな土地であったが、産業構造の変化で、衰退の一途をたどるとともに、過疎化が進んでいる。しかし、校区内には世界遺産となった「熊野古道」が通っていることなどから、全国的な知名度が上がり、地域の活性化や発展に期待が高まってきている。

近野中学校に通う生徒は、素朴で明るく温和であり、基礎・基本の学力を身につけ、真面目な学校生活を送っている。反面、切磋琢磨の機会が少なかったり、大声で発表する機会が少なかったりという課題もある。保護者や地域住民は、教育に対する関心は非常に高く協力的である。また、保護者のほとんどが卒業後は都市部の高等学校へ進学させたいと願っている。

3 研究の概要

(1) 研究の仮説

- ① ふるさとについて学び、保護者や地域の方々との交流を深めることによってふるさとを愛する生徒を育成できる。
- ② 地域や学校での体験を通じて、生きる力を身につけて心豊かな生徒を育成できる。
- ③ 生徒の主体的な活動を通じて、心身共にたくましい生徒を育成できる。

(2) 公開授業

① 公開授業Ⅰ

1年【社会科】中世の日本「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」

2年【国語科】「漢詩の風景」

② 公開授業Ⅱ

3年【総合的な学習の時間】学習発表会「保護者・地域と共に学んだこと」

4 所感

公開授業は、2年生の国語科の授業と3年生の総合的な学習の時間を参観した。

国語の授業は、単元の第1時であったため、漢文を読むときの約束ごとを理解し習得することをねらいとした授業であった。日本語と中国語は語順が異なるため、漢文は返り点をつけて読むことを理解させるとともに、「レ点」等がついたときの読み順について設問を解きながら理解させていた。少人数の授業で、生徒同士の言語交流を充実させるのは本校と共通する課題であった。

総合的な学習の授業では、生徒同士の協力は勿論、地域の方々の協力を得ながらの学習に大きな成果を得ていることを知ることができた。この地域には、「熊野古道」にまつわる史跡が数多くあることから、ふるさと学習に重きを置いた学習が展開されており、その学習を通してふるさとへの愛着心やお世話になった方への感謝の心を育てていた。山間へき地校の利点をフルに生かした有効な教育活動を見ることができた。

本分科会に参加して、純朴で何にでも一所懸命取り組む生徒たちが通う松井田北中学校を、地域の教育力を更に有効活用し、「日本一の学校にする」という決意と勇気をもらうことができた。

I 分科会

一人ひとりが進んで表現し、ともに学び合う授業の創造

中之条町立六合小学校長 富沢 正

1 会場校 和歌山県田辺市立富里小学校（全校児童29名、完全複式校、職員数8名）

2 地域・学校の概要

富里小学校は紀伊半島南部の内陸山地中心部の一画を占める、旧大塔村中央部を流れる日置川の上流に位置する。東部に1,120mを超す大塔山・法師山を主峰とする大塔山系がひろがる。校歌に「清く流れる日置川の岸のさつきも美しく」と歌われているように、豊かな自然に囲まれた静かな場所にある。教育施設も充実しており、教育環境としても恵まれている。

地域住民は、学校教育に対してとても協力的で、地域唯一の学校として学校行事への参加者も多く、常に物心両面で協力・援助してくれる。

3 研究の概要

(1) 研究の内容（研究の目的、研究に向かう姿勢）

- ① 指導体制の確立。
- ② 学校全体の課題と課題に迫る具体的な手立てを共有し6年間で子どもを育てる。
- ③ 自らの授業の課題を発見し、改善し、子どもの学力を向上させる。
- ④ 基本的な学習過程、目指す子どもの姿を明確にする。
ア：思考力・判断力・表現力を育てる授業
イ：子どもが前面に出る授業
ウ：問題解決型の授業

(2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 1・2学年：国語 3・4学年：国語
5・6学年：国語
- ② 公開授業Ⅱ 全学年：生活科・総合的な学習の時間
「乙女祭りで富里のよさを伝えよう」



[6学年の様子]

4 所感

公開授業Ⅰは5・6学年の複式授業、国語を参観した。「授業を通してひとり学びの仕方を学ばせる」という観点で参観したが、授業は学習リーダー（各学年1名）を中心に進められた。課題把握の場面では「見通しシート」の提示、「単元の学習計画」の掲示等で本時の目的・方法が確認されたあと、課題追求が行われた。自力で考え・書かせる場面、集団で討議する場面、学んだことの共有の場面等で、指導者が「わたり」によって、的確な指導を行っていた。ひとり学びのための学習スタイル、1時間の授業の流れが低学年から積み上げられ、訓練されていると感じた。

公開授業Ⅱは全学年で「乙女祭り」に取り組んだ。地域の人々の協力を得て、地域の食文化（蓬餅山菜寿司・こんにゃく等）を紹介し、ふるさと料理として振舞ってくれた。これだけの協力が得られるということは、地域の学校に対する期待の高さでもあると思った。

研究協議で印象に残ったのは以下の点である。6年間で児童を育てるとともに、学習リーダーを育成するという視点が明確なこと。教師の側が教科の基礎・基本について、6年間の系統と発展性を考えていること。研究主題に迫る指導の重点が明示され、学習指導の充実が図られていること。

学校規模は複式3学級と小さいが、研究テーマに沿い「児童一人ひとりが学習課題に主体的に取り組む、自分なりの考えをもたせたい」という教職員の思いが表れた授業・研究発表であった。

J分科会

文章を読み取り、自分の思いを表現できる子どもの育成

～書く活動を通して～

婦恋村立干俣小学校 山口 暁夫

1 会場校 和歌山県西牟婁郡白浜町立椿小学校（児童数22名 3学級 職員数8名）

2 地域・学校の概要

白浜町椿地区は和歌山県のやや南に位置し、近くに白浜温泉がある。往古より霊泉椿湯として知られ、その泉質の優秀さにより湯治湯として発展してきたという歴史を持っている。平成23年度末の人口は698人、世帯数374戸であり、旅館業や漁業が盛んであり、温暖な気候を活用しての野菜や米、花卉等の栽培も行われている。

地域、保護者は、学校教育についての関心を持っており、学校行事にも協力的であり、地域と一体となった運動会や文化祭も行われている。

児童数は年々減少し、現在は22名で完全複式校である。児童は素直で人なつこく、与えられた仕事や課題に誠実に取り組むことができる反面、自ら考えて行動することが苦手な児童も散見される。

3 研究の概要

(1) 研究の仮説

- ① 学習課題が分かりやすいよう、工夫し提示すれば、児童自らが課題解決の意欲をもち、進んで書く活動に取り組むことができるであろう。
- ② 書く活動を間接指導の学習時に工夫して取り入れることで、児童が進んで自分の考えを書き、自信を持って表現（発表）することができるであろう。
- ③ 書いたことをもとに、お互いの考えを交流し合ったり、深める場を工夫したりすれば、自分の考えを明確にし、考えを深めることができるであろう。

(2) 研究の内容

- 学習課題を明確にした授業の工夫改善
- 書く活動を工夫した授業の工夫改善
- 伝え合い学び合う授業の工夫改善

(3) 公開授業

① 公開授業①

- 1・2年複式 1年：くじらぐも、2年：お手紙
- 3・4年複式 3年：三年とうげ、4年：ごんぎつね
- 5・6年複式 5年：天気を予想する、6年：「鳥獣戯画」を読む

② 公開授業②

全校（児童発表） 「生活・総合的な学習の時間より 地域に学ぶ」

4 所感

完全複式校であり、低・中・高学年の国語の授業全てが「わたり」方式で行われた。児童の自学、共同学習を成立させなくては、指導が立ちゆかなくなるという課題を克服するために、学習リーダーを育て、有効に活用している指導方法が見られた。低学年から発達段階や実態を踏まえながら、どの児童にもその機会を与えるという積み重ねによって、徐々にリーダーを育てていることは学習以外の自己存在感を味合わせることにもつながっていると感じた。

また、全校発表である「地域に学ぶ」では、地域の特色や文化を地域の人材を活用しながら、より深く調べていることはなされており、地域の中の学校というよさを十分に感じ取れた。

K分科会

豊かな心、たくましく生きる力を身につけ、自己の生き方を考える生徒の育成

～生徒の主体性が育つ活動を通して～

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

1 会場校 和歌山県白浜町立三舞中学校

2 地域・学校の概要

白浜町は紀伊半島の南部に位置し、森林が全体の約81%を占めている。南紀白浜温泉や椿温泉など古くから親しまれている旧白浜町と、梅製品・備長炭・川添茶などの特産品のある旧日置川町がH18年に合併して新たな白浜町がスタートした。三舞中学校は、旧日置川町地域にある。校区には、16の行政区があり、戸数520戸、人口1016人の1級へき地指定校である。本年度の全校生徒数は17名である。生徒は、総じて素朴・温和であり、学習や行事、生徒会活動や部活動には真面目に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究課題・内容

- ① 「郷土を愛し郷土を守る生徒」…総合学習や地域に根ざした学校行事において、郷土の学習を工夫し続け、地域の良さを知り、郷土の自然や産業、伝統文化を守り、自己と地域の関わりや生き方を考える生徒を育成する。
- ② 「自ら考え判断して行動できる生徒」…小中連携行事、文化祭、生徒会活動などで、異年齢集団や自治的な活動の支援の仕方を工夫し、主体的に考え判断して行動できる生徒を育成する。
- ③ 「自分の考えや思いを意欲的に伝え合うことのできる生徒」…モーニングスピーチや全校集会、教科学習の場で、自分の思いを表現する機会を工夫して設定し、自分の考えや思いを意欲的に伝え合うことのできる生徒を育成する。

(2) 研究の実際

- ① 総合的な学習（地域学習）、お茶摘み、川添まつり、地域行事への参加
- ② 小中合同運動会、中学校文化祭、委員会活動、中学校体験入学
- ③ モーニングスピーチ、全校集会、授業改善（小中連携研修）

(3) 公開授業

- 1校時－中学1年社会（生徒数5名）「自然災害と防災の取り組み」
- 1校時－中学2年英語（生徒数8名）「Let's Chat」(Unit5 : A New Language Service)
- 1校時－中学3年数学（生徒数4名）「関数 $y = a x^2$ 」
- 2校時－全校集会「モーニングスピーチ、保健体育委員会の発表」

4 所感

全校生徒17名の小規模校であるが、「豊かな心、たくましく生きる力を身につけ、自己の生き方を考える生徒の育成」の研究主題のもと、着実な実践が感じられた。1年の社会の授業では、昨年の紀伊半島の水害を取り上げるなど、地域に合致した授業であった。また、「モーニングスピーチ」では、発表者が意見を発表するだけでなく、聞いている人から発表者に質問の時間なども用意され、深まりがあるように工夫されていた。その際の、発言の仕方などよく訓練されていて、日々の指導の成果が感じられた。小中学校の連携にも努め、地域で児童・生徒を育てるという意識を強く感じた。当日の運営、接待等にPTAの方々が多く参加するなど、平成26年度に、全国へき地教育研究大会群馬大会の分科会場となっている本校にとって、運営方法を含め、大変参考になった。

資 料

I 平成24年度 へき地学校資料

〈1〉 級別へき地学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成 24. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A 計 分校	B 県全体 分校	$\frac{A}{B}$
	小学校	13	3	6	7	2	1(1)	0	32 1(1)	329 1(1)
中学校	7	2	1	5	2	1(1)	0	18 1(1)	168 1(1)	10.7%
計	20	5	7	12	4	2(2)	0	50 2(2)	497 2(2)	10.1%

〈2〉 級別へき地本校分校別学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成 24. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計
	小学校								
本校	13	3	6	7	2	0	0	31	32
分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	(1)
中学校									
本校	7	2	1	5	2	0	0	17	18
分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	(1)

〈3〉 級別へき地学校児童生徒数

平成 24. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	$\frac{A}{B}$
	小学校	1,107	534	346	433	125	0	0	2,545	110,375
中学校	530	336	16	449	58	0	0	1,389	56,626	2.5%
計	1,637	870	362	882	183	0	0	3,934	167,001	2.4%

〈4〉郡市別へき地学校数一覧

（ ）内は、内数で休校中の学校である。

平成24. 5. 1現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計	
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定					県 準			
					4	3	2	1	準		特		
1	前 橋	小 中	1(1) 1(1)	1(1) 1(1)		1(1) 1(1)							1(1) 1(1)
2	渋 川	1		1							1		1
3	高 崎	2 1		2 1					2			1	2 1
4	安 中	2 1		2 1							2 1		2 1
5	多 野	2 2		2 2			1 2	1					2 2
6	甘 楽	1 1		1 1							1 1		1 1
7	吾 妻	15 8		15 8			1 4	5 4	1	3 1	5 3		15 8
8	沼 田	2 2		2 2					1 1		1 1		2 2
9	利 根	6 2		6 2				1 1	2		3 1		6 2
総	小 計	31 17	1(1) 1(1)	32(1) 18(1)	0 0	1(1) 1(1)	2 2	7 5	6 1	3 2	13 7		32(1) 18(1)
	計	48	2(2)	50(2)	0	2(2)	4	12	7	5	20		50(2)

〈5〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成24. 5. 1現在

郡市	学年								学級数計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
渋川市	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
安中市	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1
多野郡	0	1	1	0	0	0	0	0	2	2
甘楽郡	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1
吾妻郡	1	0	2	0	1	0	0	0	4	2
沼田市	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2
利根郡	1	0	3	0	3	0	0	0	7	4
計	3	2	10	1	4	0	0	0	20	13

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移(小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計 (A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5

II 平成24年度 群馬県へき地教育振興会役員

平成24. 5. 1現在

会長 星野巳喜雄 (沼田：沼田市長)
 副会長 宮前 敏十郎 (多野：神流町長) 谷川 猛 (吾妻：中之条町教育委員長)
 理事 千明 金造 (利根：片品村長)
 佐藤 博之 (前橋：前橋市教育長) 小林巳喜夫 (渋川：渋川市教育長)
 飯野 眞幸 (高崎：高崎市教育長) 中澤 四郎 (安中：安中市教育長)
 齋藤 義久 (多野：神流町教育長) 土屋東一郎 (甘楽：南牧村教育長)
 谷川 猛 (吾妻：中之条町教育委員長) 星野巳喜雄 (沼田：沼田市長)
 千明 金造 (利根：片品村長)

評議員

郡市	町村	評議員
前橋市		佐藤 博之 (教育長)
渋川市		小林 巳喜夫 (教育長)
高崎市		飯野 眞幸 (教育長)
安中市		中澤 四郎 (教育長)
多野郡	上野村	田村 正利 (教育長)
	神流町	齋藤 義久 (教育長)
甘楽郡	南牧村	土屋 東一郎 (教育長)
	甘楽町	柴山 豊 (教育長)
吾妻郡	中之条町	唐澤 正明 (教育長)
	長野原町	黒岩 文夫 (教育長)
	嬭恋村	熊川 浩 (教育長)
	草津町	中澤 隆 (教育長)
	高山村	高平 秀三 (教育長)
沼田市	東吾妻町	高橋 啓一 (教育長)
		津久井 勲 (教育長)
利根郡	片品村	星野 準一 (教育長)
	昭和村	板橋 芳郎 (教育長)
	みなかみ町	牧野 堯彦 (教育長)

監事 黒岩 文夫 (吾妻：長野原町教育長) 星野 準一 (利根：片品村教育長)

平成24年度 へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局書記・会計 春田 晋・増茂 孝行

郡市町村	連絡先	事務担当者	へき地担当指導主事
前橋市	前橋市教育委員会	吉野 雄一郎	大谷 葉月 (中部教育事務所)
渋川市	渋川市教育委員会	下境 一浩	
高崎市	高崎市教育委員会	中澤 康治	
安中市	安中市教育委員会	萩原 宏明	
上野村	上野村教育委員会	今井 孝男	市村 敏男 (西部教育事務所)
神流町	神流町教育委員会	齋藤 朋美	
南牧村	南牧村教育委員会	茂木 美佐子	
甘楽町	甘楽町教育委員会	齊藤 克也	
中之条町	中之条町教育委員会	本多 守	浅井 広之 (吾妻教育事務所)
長野原町	長野原町教育委員会	矢野 今朝治	
嬭恋村	嬭恋村教育委員会	加藤 康治	
草津町	草津町教育委員会	椛澤 知恵子	
高山村	高山村教育委員会	後藤 好	
東吾妻町	東吾妻町教育委員会	西巻 雅子	阿部 詩子 (利根教育事務所)
沼田市	沼田市教育委員会	大竹 敏之	
片品村	片品村教育委員会	星野 祐那	
昭和村	昭和村教育委員会	中島 伸枝	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	佐々木 裕也	

Ⅲ 平成24年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 吉野隆哉（利根：片品村立片品小学校）
- ・副理事長 新井俊幸（多野：神流町中里中学校）
- 高橋通泰（吾妻：長野原町立北軽井沢小学校）
- 平賀信夫（利根：片品村立片品中学校）
- ・常任理事 住谷孝明（高崎：高崎市立宮沢小学校）
- 山口暁夫（吾妻：嬭恋村立干俣小学校）
- ・事務局長 梅澤克之（利根：片品村立片品南小学校）
- ・会計部長 西山和子（渋川：渋川市立南雲小学校）
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地（電話番号）	備考
A 前橋・高崎・安中・多野・甘楽	新井 俊幸	神流町立中里中学校	多野郡神流町神ヶ原422 (0274-58-2517)	副理事長 総務部長
	住谷 孝明	高崎市立宮沢小学校	高崎市宮沢町1100-1 (027-374-2317)	常任理事
	池田 隆郎	甘楽町立秋畑小学校	甘楽郡甘楽町秋畑1553-1 (0274-74-9502)	
	今井 典幸	安中市立松井田北中学校	安中市松井田町上増田3602-1 (027-393-1520)	
	新井 秀一	上野村立上野小学校	多野郡上野村新羽32 (0274-59-2004)	
B 吾妻	高橋 通泰	長野原町立北軽井沢小学校	長野原町北軽井沢1924 (0279-84-3010)	副理事長
	山口 暁夫	嬭恋村立干俣小学校	嬭恋村干俣1313 (0279-96-0454)	常任理事 研究部長
	関口 満	東吾妻町立坂上小学校	東吾妻町本宿401-1 (0279-69-2005)	

B 吾 妻	牛木 雅人	東吾妻町立坂上中学校	東吾妻町本宿389 (0279-69-2227)	
	富沢 正	中之条町立六合小学校	中之条町小雨599-1 (0279-95-3571)	
C 利 根 沼 田 ・ 渋 川	吉野 隆哉	片品村立片品小学校	利根郡片品村鎌田3952 (0278-58-3126)	理事長
	平賀 信夫	片品村立片品中学校	利根郡片品村鎌田4480 (0278-58-2019)	副理事長 調査部長
	高橋 和広	沼田市立平川小学校	沼田市利根町平川839 (0278-56-2009)	
	梅澤 克之	片品村立片品南小学校	利根郡片品村花咲2118 (0278-58-3521)	事務局長
	西山 和子	渋川市立南雲小学校	渋川市赤城町長井小川田1435 (0279-56-2911)	会計部長
「板木」 実務 担当	角田 和志	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝334 (0279-56-2044)	

IV 平成24年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾妻東部	中澤 章文	中之条町立中之条小学校内	〒377-0423 中之条町大字伊勢町1035-1 (0279-75-2130)
吾妻西部	橋詰 忠明	嬭恋村嬭恋会館内	〒377-1526 嬭恋村大字三原691 (0279-80-2330)
利 根	高橋 和秀	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 平成24度へき地教育功労者

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
1	むらやま たつこ 村山 辰子 神流町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に神流町立万場小学校教諭として退職するまで、多野郡内のへき地学校に36年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	くろさわ しょうじ 黒沢 昌治 神流町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に神流町立万場小学校教諭として退職するまで、多野郡内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	たむら すがこ 田村 清子 甘楽町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に甘楽町立福島小学校教諭として退職するまで、甘楽郡内のへき地学校に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	やまだ きょうこ 山田 京子 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に中之条町立西中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	なかやま くにお 中山 邦男 長野原町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に長野原町立中央小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に32年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	いちば せいじ 一場 誠治 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に嬭恋村立干俣小学校統括事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に37年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	やまぐち けいこ 山口 恵子 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に草津町立草津中学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に37年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	やまもと はれお 山本 晴雄 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に草津町立草津中学校統括補佐事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に34年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	ごとう さちえ 後藤 幸恵 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に高山村立高山中学校用務員として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に36年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	さとう ともこ 佐藤 友子 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に東吾妻町立東小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	とみざわ たつお 富澤 辰男 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に東吾妻町立坂上中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	たかはし まさひろ 高橋 正広 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に東吾妻町立岩島中学校教頭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	しみず としひこ 清水 利彦 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成24年3月に沼田市立利南東学校教諭として退職するまで、利根郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第61集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしております。

群馬県においても少子・高齢化、人口の都市部への集中は顕著であり、小・中学校の統廃合が後を絶ちません。へき地校だけに限っても、平成14年度には67校ありましたが、今年度は50校であり、10年間で実に4分の1の学校がなくなっているということになります。

そのような状況の中でも、各へき地校では、少人数の利点を生かしたきめ細かな指導、恵まれた自然環境のもとでの体験活動等、地域に根差した特色ある教育活動が日々実践されております。この「板木」第61集にも、へき地校ならではのよさを生かした教育実践が多数掲載されておりますので、各校において明日からの教育実践に生かしていただければ幸いです。

今年度も、ご多用の中にもかかわらず、へき地教育に邁進している多くの方々から、原稿執筆・編集等ご協力を頂きました。おかげさまで、無事平成24年度のへき地教育の記録を残すことができました。心よりお礼申し上げます。

皆様の協力によりできあがった「板木」第61集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの人に活用されることを願っております。

なお、編集に携わったメンバーは、次のとおりです。

群馬県教育委員会事務局	堀澤 勝 (義務教育課長)
	鈴木 佳子 (義務教育課 指導係長)
	春田 晋 (義務教育課 指導係 指導主事)
	増茂 孝行 (義務教育課 指導係 指導主事)
群馬県へき地教育研究連盟	吉野 隆哉 (県へき連 常任理事・理事長)
	新井 俊幸 (県へき連 常任理事・副理事長・総務部長)
	高橋 通泰 (県へき連 常任理事・副理事長)
	平賀 信夫 (県へき連 常任理事・副理事長・調査部長)
	山口 暁夫 (県へき連 常任理事・研究部長)
	梅澤 克之 (県へき連 常任理事・事務局長)
	西山 和子 (県へき連 常任理事・会計部長)
	住谷 孝明 (県へき連 常任理事)
	池田 隆郎 (県へき連 理事)
	今井 典幸 (県へき連 理事)
	新井 秀一 (県へき連 理事)
	関口 満 (県へき連 理事)
	牛木 雅人 (県へき連 理事)
	富沢 正 (県へき連 理事)
	高橋 和広 (県へき連 理事)
	角田 和志 (県へき連 「板木」担当)